

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県

自治体名：宮城県

担当課名：保健体育安全課

電話番号：022-211-3667

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	7,282km ²
人口	2,225,260人 ※R8.2.1現在
公立中学校数	125校 ※仙台市除く
都道府県立中学校数	2校
公立中学校生徒数	29,077人 ※仙台市除く
都道府県立中学校生徒数	626人
部活動数	1,111部活 ※仙台市除く
都道府県立中学校部活動数	27部活
都道府県立中学校における地域クラブ活動数	17クラブ
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

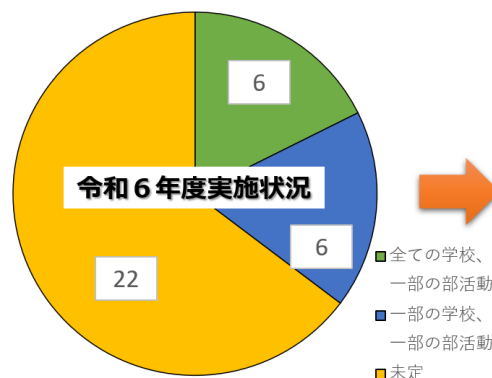
地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

令和5年3月に「学校部活動と新たなクラブ活動のガイドライン」を策定し、宮城県の方針を示した。ガイドラインでは、令和5年度を移行検討期間とし、地域移行に向けた準備をするため、協議会の設置等を進めるための期間とした。令和6年度からは、改革推進期間とし、準備が整った自治体から順次地域移行を推進していく期間とした。本県は、令和6年度段階で、12市町村が休日の地域クラブ活動を開始している。課題としては、関係者の理解や持続可能な収支構造の構築、指導者の確保が挙げられている。

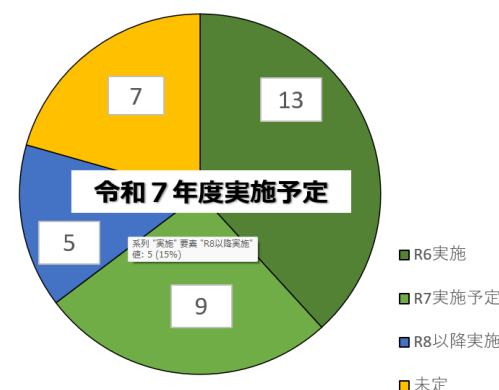
令和7年3月に県のガイドラインを第2版に改訂し、令和10年度中にはすべての市町村で休日に部活動を行わないことを目標とすることとした。令和7年度中には22市町村が休日に地域クラブ活動を行う予定としている。

宮城県が直接所管する県立中学校においては、令和6年度から実施校を2校に増やした。令和8年度には休日の部活動を行わず、地域の活動に展開する予定である。学区が広域になるため、他市町村の状況に鑑みて、持続可能な体制整備を進めていく。

学校単位



地域クラブ

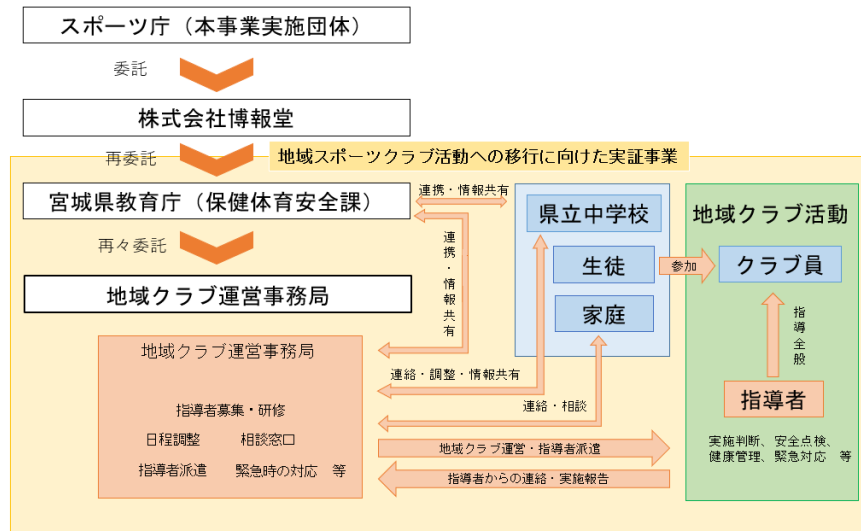


令和7年度中に、22の市町村で休日に地域クラブで活動が実施される予定。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・保健体育安全課 → 部活動地域移行全体に関するもの、主に運動部に関するもの
- ・生涯学習課 → 主に文化部活動に関するもの、移行後の体制に関するもの
- ・教職員課 → 主に服務制度に関するもの

◎首長部局

- ・企画部スポーツ振興課
→ 移行後の体制整備に関するもの、指導者の育成に関するもの

年間の事業スケジュール

令和7年4月25日	学校部活動の地域移行に係る担当者説明会及び情報交換会
令和7年5月	第1回市町村実態調査
令和7年7月4～5日	先進地域視察（青森県むつ市）
令和7年9月10日	部活動地域移行フォーラム
令和7年12月	第2回市町村実態調査
令和8年1月14日	部活動地域移行研修会
令和8年2月10日	学校部活動の地域移行協議会
令和8年3月	仙台二華中学校分科会・古川黎明中学校分科会

○年間を通した取組

- ・市町村、関係団体訪問及び説明会等での行政説明
- ・部活動の地域移行等に向けた実証事業（10自治体）

実施自治体：宮城県 白石市 角田市 大崎市 栗原市

気仙沼市 亶理町 利府町 加美町 涌谷町

- ・部活動指導員の配置

- ・みやぎ地域クラブ指導者人材バンクシステムの運用

登録数：指導者268人 団体38件（2/1現在）

- ・地域クラブ活動指導者研修会（年3回）

受講者：122人

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	17クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		17クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	25人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること ●地域クラブ活動の初回は、顧問からの引継ぎ、担当講師の指導方法の確認を考慮して通常部活動に地域クラブ指導者を派遣し実施した。

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費
仙台二華中学校 陸上クラブ	委託事業者	陸上競技	休日 月2回	9:00～12:00	1年 3人 2年 6人 3年 5人	R7.5～R8.2	2人	5人	150円/月額
仙台二華中学 ソフトテニスクラブ	委託事業者	ソフトテニス	休日 月2回	9:00～12:00	1年 10人 2年 5人 3年 0人	R7.6～R8.2	3人	5人	150円/月額
仙台二華中学校 バレーボールクラブ	委託事業者	バレーボール	休日 月2回	9:00～12:00 13:00～16:00	1年 3人 2年 2人 3年 2人	R7.6～R8.2	1人	5人	150円/月額
仙台二華中学校 サッカークラブ	委託事業者	サッカー	休日 月2回	10:00～12:00 14:00～16:00	1年8人 2年3人	R7.9～R8.2	1人	5人	150円/月額
仙台二華中学校 バドミントン	委託事業者	バドミントン	休日 月2回	9:00～12:00 13:00～16:00	1年13人 2年6人	R7.9～R8.2	4人	5人	150円/月額

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	17クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		17クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	25人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること ●地域クラブ活動の初回は、顧問からの引継ぎ、担当講師の指導方法の確認を考慮して通常部活動に地域クラブ指導者を派遣し実施した。

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費
仙台二華中学校水泳クラブ	委託事業者	水泳	休日 月2回	10:00～12:00	1年 1人 2年 3人	R7.9～R8.2	1人	5人	150円/月額
仙台二華中学校卓球クラブ	委託事業者	卓球	休日 月2回	14:00～16:00	1年 7人 2年 8人	R7.9～R8.2	3人	5人	150円/月額
仙台二華中学校剣道クラブ	委託事業者	剣道	休日 月2回	9:00～11:30	1年 0人 2年 6人	R7.9～R8.2	2人	5人	150円/月額
仙台二華中学校バスケットボールクラブ	委託事業者	バスケットボール	休日 月2回	14:00～16:00	1年 6人 2年 6人	R7.9～R8.2	2人	5人	150円/月額
仙台二華中学校新体操	委託事業者	新体操	休日 月2回	8:30～11:30 13:00～16:00	1年 2人 2年 0人	R7.9～R8.2	1人	5人	150円/月額

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	17クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		17クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	25人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること ●地域クラブ活動の初回は、顧問からの引継ぎ、担当講師の指導方法の確認を考慮して通常部活動に地域クラブ指導者を派遣し実施した。

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費
古川黎明中学校 陸上クラブ	委託事業者	陸上	休日 月2回	10:00～12:00	1年 4人 2年 4人	R7.10～R8.2	1人	5人	150円/月額
古川黎明中学校 サッカークラブ	委託事業者	サッカー	休日 月2回	14:00～16:00	1年 7人 2年 0人	R7.9～R8.2	1人	5人	150円/月額
古川黎明中学校 バレーボールクラブ	委託事業者	バレーボール	休日 月2回	8:30～11:30	1年 1人 2年 5人	R7.9～R8.2	1人	5人	150円/月額
古川黎明中学校 バスケットボールクラブ	委託事業者	バスケットボール	休日 月2回	14:00～16:00	1年 6人 2年 4人	R7.6～R8.2	1人	5人	150円/月額
古川黎明中学校 バドミントンクラブ	委託事業者	バドミントン	休日 月2回	9:00～12:00	1年 6人 2年 6人	R7.7～R8.2	3人	5人	150円/月額
古川黎明中学校 野球クラブ	委託事業者	野球	休日 月2回	8:30～11:30	1年 4人 2年 1人	R7.7～R8.2	1人	5人	150円/月額
古川黎明中学校 弓道クラブ	委託事業者	弓道	休日 月2回	8:30～11:30	1年 2人 2年 2人	R7.7～R8.2	2人	5人	150円/月額

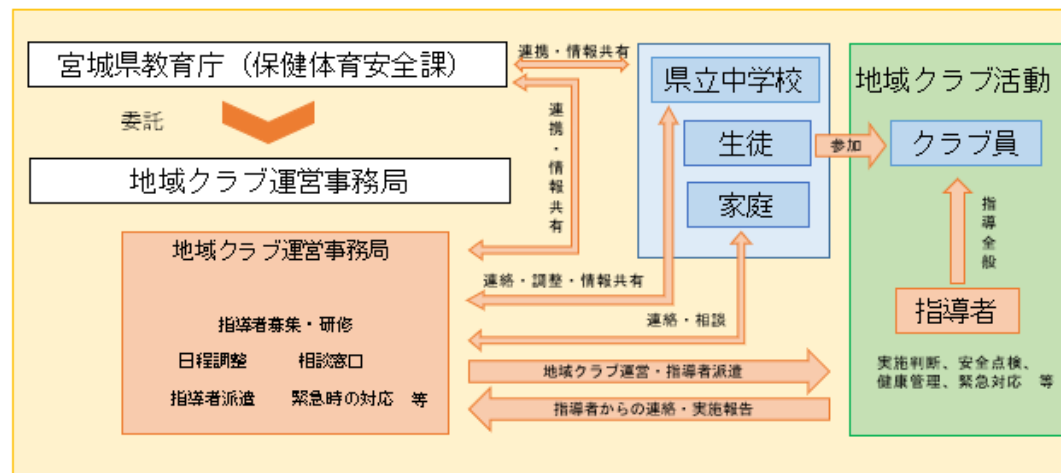
2.実証内容と成果

主な取組例

●宮城県地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	・古川黎明中学校 陸上・バドミントン・バスケットボール・弓道・サッカー バレーボール・野球 ・仙台二華中学校 陸上・バレーボール・ソフトテニス・水泳・剣道・卓球 バスケットボール・バドミントン・新体操・サッカー
運営団体名	株式会社フクシ・エンタープライズ東北支店
期間と日数	古川黎明中：7月1日～2月23日 月2回程度 仙台二華中：5月1日～2月23日 月2回程度
活動場所	古川黎明中学校 仙台二華中学校
主な移動手段	自家用車・公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	・月会費：150円 （指導者謝金、指導者交通費） →参加する月から2月までの入会期間合計額を徴収 例）9月から参加した場合＝参加期間6カ月（8月は含まない） 150円×6カ月＋200円＋800円 →年間1,900円を負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事業責任者 2名
役割：活動における管理者として、自治体、学校との連携を行う
- 事業担当者 1名
役割：活動における現場責任者として、講師、保護者との連携を行う
- 運営補助者 2名
役割：現場責任者の補助として運営を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 広域的なコーディネーター活動を行う事業担当者を1名配置し、各学校、講師、連絡調整を行う。
- ・ 参加者管理、参加者・指導者への連絡、活動日時調整、SNSアプリ、メール等を活用して行う。

取組の成果

- ・ 事業担当者を配置したことにより、各関係各所、保護者対応等の連絡調整やコーディネーター業務を円滑に行うことができた。
- ・ メール、集計フォーム等の活用により、参加者及び保護者への連絡調整、参加登録手続き等、効率的に行うことができた。

順序		保護者様	事務局（フクシ・エンタープライズ）
1	参加登録	右記載のQRコード(デジタルフォーム)から参加登録(保護者の同意含む)をお願いいたします。 ※3年生に関しては参加登録時に活動期間を登録してください。	
2	ご入金金額について		事務局にて登録手続き後、ご入金金額、期限については、メールをお送りいたします。 ※送信したメールが届くよう、事前に連絡先登録をお願いいたします。
3	クラブ活動費のご入金 及び お支払い明細をメール	メールに記載された参加費金額を指定口座(9ページ詳細記載)に5/28(水)までにご入金下さい。 ご入金時の注意事項について依頼人欄に【OOチュウガク ミヤギタロウ】のようにご入力下さい。 ご入金後は事務局へお支払い明細書を添付の上送信下さい。	
4	スポーツ保険加入		お支払い明細書の内容確認がとれ次第、スポーツ保険に加入いたします。 スポーツ保険加入後は、保険加入完了通知メールをお送りいたします。
5	地域クラブ活動参加	事務局から【保険加入完了通知メール】が届いたら登録完了とし、地域クラブ活動に参加できます。 ※参加費のご入金、スポーツ保険加入が完了していない場合、地域クラブ活動の参加はできません。	6

出典:令和7年度宮城県地域スポーツクラブ体制整備実証事業保護者マニュアル

コーディネーターの具体的な動きの実績

各地域クラブを巡回し、講師から課題等のヒアリング・助言等を実施。

- ・ 各学校の顧問と調整等を実施し、連携、スムーズな運営に努めた
- ・ 学校、講師、参加者、保護者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- ・ 学校区域内の講師確保を目指すことにより、持続的なクラブ運営体制の構築を図る。
- ・ コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の採用後は、地域クラブ事務局から指導者に対して中学生に対する適切な指導についての知識や地域クラブ活動指導者として果たすべき責務、役割について理解を深める研修、AED研修等を実施し、地域クラブ活動に従事してもらう。

指導者研修内容及び事故発生時緊急時対応策の内容

●緊急対応マニュアルについて（右記載）

事故発生時の対応については、右図の緊急対応マニュアルを講師と随時確認。

●心肺蘇生法について（採用時の指導者研修内で実施）

講師がいつでも実施方法を確認できるよう、動画サイトで閲覧できる体制を構築。

（日本赤十字社の動画）

https://youtu.be/NGNaD_UY-A4?si=ak6-pWyXD9idzE1X

●AEDの置き場所について

各校AED設置場所を写真、地図を記載した資料を講師へ配布。

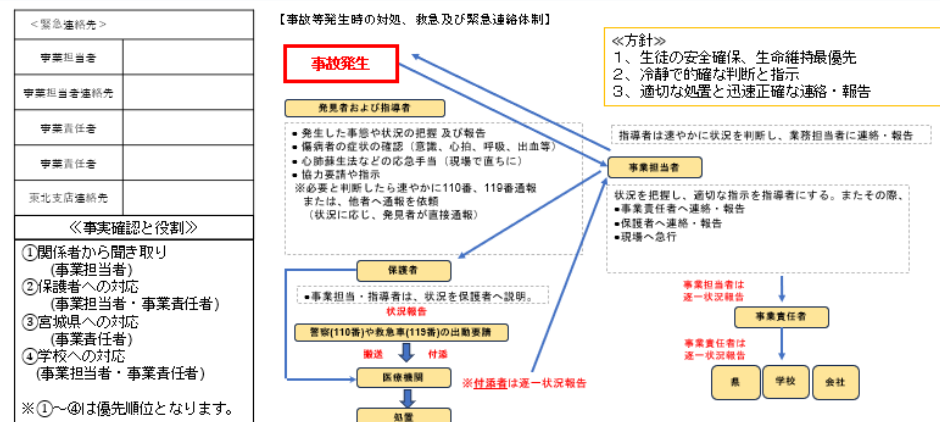
講師への緊急時対応策の周知

- ・随時、指導中の緊急時に備え、緊急時対応策の理解を深めることを徹底。
- ・常に緊急対応策を確認できるように、メール等で発信。
- ・右図の緊急対応マニュアルを随時確認。

受講者の声

事故発生時の対応

事故等による傷病者を発見した際には、第一発見者は、被害児童生徒等の症状を確認し、近くにいる指導者や生徒等に応援を要請するとともに、被害生徒等の状況に応じて、速やかに止血、心肺蘇生などの応急手当を行います。



5

今後の課題と対応方針

- ・緊急時対応策、AED使用についての理解を深めるために、研修会を全講師を対象に開催するだけでなく、講師が実施方法を随時確認できる環境を構築し、常に意識付けをしていくことが、参加生徒の安全を担保できる運営につながる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

国が進める地域移行は、これまで学校部活動が担ってきた生徒の育成を、地域の指導者や地域の活動を通して子どもたちを育てる環境に移行する目的がある。

県立中学校では、休日の部活動を地域クラブ活動へ段階的に転換するため、休日の部活動運営をすべて外部指導者に任せる『地域クラブ活動』を目指す。

地域クラブ活動を通して、外部の指導者から専門的な指導を受けたり、地域の指導者と関わり合いながら、健やかな身体と豊かな人間性を身に付けることに寄与することを目指す。

活動の詳細

参加人数	156人	指導者数	25人
具体的な内容	古川黎明中学校、仙台二華中学校それぞれ地域クラブの運営（1種目1クラブ）及び統括コーディネーターの配置等		
参加者の声	- 競技種目に特化した指導者の配置により、より専門的な練習内容を経験しスキルアップした - 通常部活動よりも、多くの練習メニューを実施することができた - 各競技種目の基礎となる技術・技能を深く学び、習得につなげられた		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 参加者、保護者等の送迎の負担、施設使用料の負担、講師の移動等の負担を軽減するために、学校体育施設を中心に活動を実施。

取組の成果

- 生徒の安全確保と、保護者の安心感の向上につなげることができた。
- 使用する備品については、通常の部活動で使用しているものを活用したため、準備および片付けが円滑に行うことができ、参加者の負担軽減につながった。
- 受益者負担額の軽減を図ることができた。
- 練習会場を毎回統一したことで、学校・コーディネーター・参加者（保護者）間における連絡の行き違いが生じなかった。

今後の課題と対応方針

屋外の競技種目は、季節や天候、気温、グラウンドコンディション等の影響により、実施回数が左右される可能性がある。そのため、屋内競技種目とのスケジュール調整を行うとともに、予備として屋内体育施設を確保する必要がある。また、屋内・屋外競技種目に共通して、夏季（6～9月）においてはWBGT測定器を活用し、定期的な測定を実施する。さらに、活動場所までの移動手段も含め、熱中症対策を徹底することが不可欠。講師および学校側と十分に協議を行い、参加者が安心して十分に活動できる環境づくりに努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、実施種目数が増加したことが大きな影響となった。特に指導者の確保には苦慮し、予定通りに事業を開始することができなかった。

運営団体と学校、運営団体と教育委員会、学校と教育委員会等、すべての関係者の共通理解にも苦慮した部分があった。学校とクラブで重なり合う部分、重なり合わない部分のそれぞれのアプローチに対する合意形成を図ることが非常に難しいものもあった。指導者を派遣して終わりということではなく、令和8年度以降、中学校の部活動を行わなくなったことを想定して、それぞれの学校で持続できる体制を整えていく必要がある。

特に費用負担については、保護者が納得して参加できる金額の設定と、指導の質が必要となる。また、これまでの部活動では発生しなかった費用が発生することに対する理解を得ることが非常に重要だと考える。令和8年度は、令和9年度以降をより想定した構造で地域クラブ活動を運営していく。

●成果の評価

○指導者の確保

実施できなかった種目については、大きな課題である

○受益者負担の設定

保護者が納得できる負担額の設定が必要

○関係団体との連携

学校と運営団体の連携強化が必要

○関係者の理解

すべての関係者の理解促進の必要性

●今後に向けて

○指導者の確保は今後も継続して行う必要がある

→令和8年度以降も地域の指導者として継続できる指導者の必要性

○受益者負担の設定

→令和8年度以降（月会費5,000～6,000円）を想定した金額や内訳の設定

○関係団体との連携

→学校と地域クラブ活動の連絡調整の方法

学校施設開放のルール作り

○関係者の理解

→教職員、保護者説明会の継続

2.実証内容と成果

取り組み事項

今年度より新たに開始する地域クラブ種目が多数あることから、地域クラブ活動の概要、参加登録方法および活動参加までの流れ（フローチャート）を説明する動画を作成した。

あわせて参加登録フォームを整備し、事務局の運営方針、講師の指導方針および活動内容について、保護者の同意を得た上で、継続的に地域クラブ活動へ参加できる体制を構築した。

取組の成果

- 本取組の実施により、昨年度と比較して登録手続きや運営に関する問い合わせが減少し、業務の効率化につながった。
- また、登録の仕方や運営体制に加え、中学校の部活動との引き継ぎや連携の仕方を伝えることで、保護者に安心感を与えるとともに、信頼の獲得にもつながった。

（電子メール施行）

保 体 号 外
令和7年6月2日

古川黎明中学校校長 殿

保健体育安全課長
（公 印 省 略）

令和7年度古川黎明中学校の休日の地域クラブ活動について（通知）

県教育委員会では部活動の地域移行を進めており、県立中学校の部活動の地域移行については、令和5年度から国の実証事業を活用して、休日の地域クラブ活動を実施しています。
つきましては、休日の地域クラブ活動の実施にあたり、保護者向けの説明動画を作成しましたので、該当する保護者にお知らせ願います。

記

1 県立中学校の部活動の地域移行について（宮城県説明動画）
動画URL <https://x.gd/E7HYWS>（約17分）

2 県立中学校の地域クラブ実証事業（株式会社フクシ・エンタープライズ説明動画）
動画URL <https://youtu.be/qkB6Yd8ogQ>（約15分）

3 参加登録フォーム

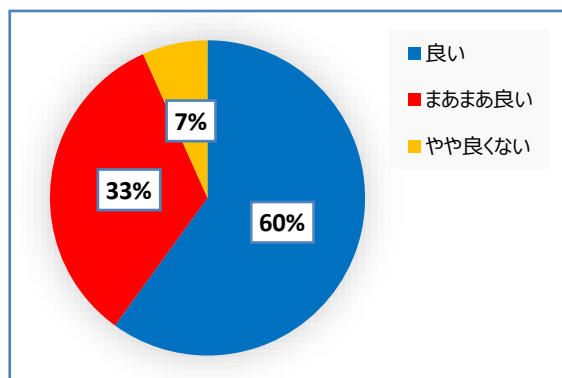
【参加者・保護者向け登録手続き動画及び参加登録案内】

2.実証内容と成果

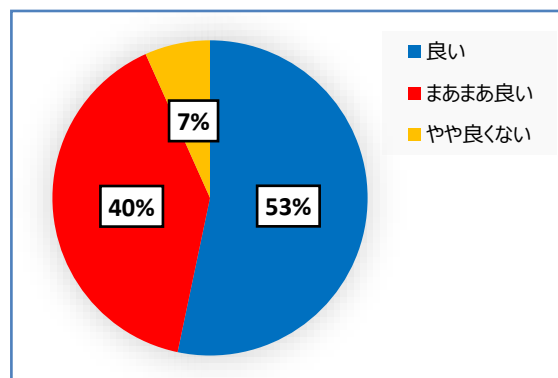
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

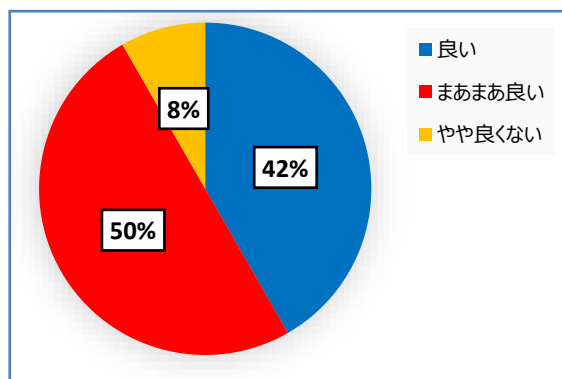
Q、【参加者】休日クラブの活動内容についてどのように感じますか？



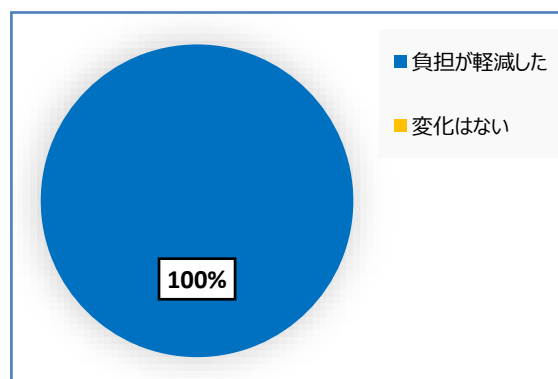
Q、【参加者】休日クラブの実施回数についてどう感じますか？



Q、【保護者】休日クラブの実施回数についてどのように感じますか？



Q、【部活動顧問】部活動地域移行により、休日業務が軽減されたと感じますか？



●参加者/関係者の声

参加者の声①

専門的な指導を受けれたため、今後、平日の部活動の指導をぜひ行ってほしい。

全体的な実施回数を増加してほしい。

保護者の声①

指導者がそれぞれの子供たちのことを考え、丁寧に指導いただけたのでとてもありがたいです。

部活動顧問の声①

専門的な知識・技術を学ぶ貴重な機会だと思う。各種大会への引率もできるようにシステムを整備していただきたい。

部活動顧問の声②

地域クラブ活動により休日に休みを取ることができるようになって負担が軽減した。

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【古川黎明中学校地域クラブ活動の様子】



【古川黎明中学校地域クラブ活動の様子】



【仙台二華中学校地域クラブ活動の様子】



【仙台二華中学校地域クラブ活動の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

古川黎明中学校地域クラブ
5種目で実施

部活動地域移行
協議会古川黎明
中学校分科会及
び仙台二華中学
校分科会

令和6年度

古川黎明中学
校9種目、仙
台二華中学校
3種目で実施

課題の整理
令和7年度以降
の体制整備

令和7年度

古川黎明中学校
7種目、仙台二
華中学校10種
目で実施

令和8年度中

休日の部活動を行わない

令和5年度

●経過

- ・ 運営団体協力のもと、予定していたすべての種目で実施
- ・ 派遣される指導者や地域の指導者がそれぞれ生徒のニーズに応じた指導を行い、満足感を得られた

●実施にあたって生じた課題

- ・ 受益者負担額の設定

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 関係者へのヒアリング
- ・ 地域移行協議会県立中学校分科会による関係者への周知

令和6年度

●経過

- ・ 予定していた実施種目を実施できなかった
- ・ 令和7年度の実施に向けて新たな体制構築が必要

●実施にあたって生じた課題

- ・ 運営団体の変更により、運営団体の選定、指導者の確保等すべてが振り出しに戻った

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 関係者へのヒアリング
- ・ 関係者への説明会
- ・ 実施種目を切れ目なく令和7年度も継続するための体制構築

令和7年度

●経過

- ・ 予定していた種目数を実施
- ・ 令和8年度の実施に向けて令和7年度の課題を検討

●実施にあたって生じた課題

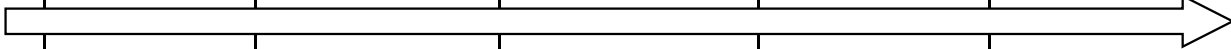
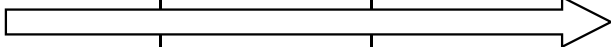
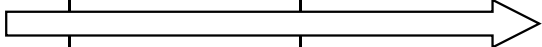
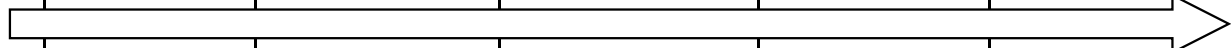
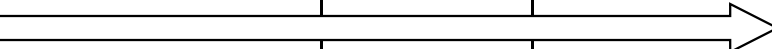
- ・ 指導者の確保
- ・ 雨天時の活動場所の確保
- ・ 受益者負担額の設定
- ・ 暑さ対策、クマ対策などによる緊急連絡体制の整備

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 関係者へのヒアリング
- ・ 関係者への説明会
- ・ 実施種目を切れ目なく令和8年度も継続するための体制構築

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度
国	改革推進期間	改革実行期間					
		前 期			中間評価	後 期	
	休日は原則として、全ての部活動において地域展開を目指す。平日は、各種課題を解決しつつ推進する。						
県	改革推進期間	改革実行期間					
	休日の地域展開						
	平日の地域展開	休日の地域展開の状況を踏まえ取組を進める。					

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県気仙沼市

自治体名： 宮城県気仙沼市
担当課名： 教育部学校教育課
電話番号： 0226-22-3441

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	332.44km ²
人口	55,329人
公立中学校数	9校
公立中学校生徒数	1,134人
部活動数 (運動部活動のみ)	61部活
地域クラブ活動数	7クラブ程度
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

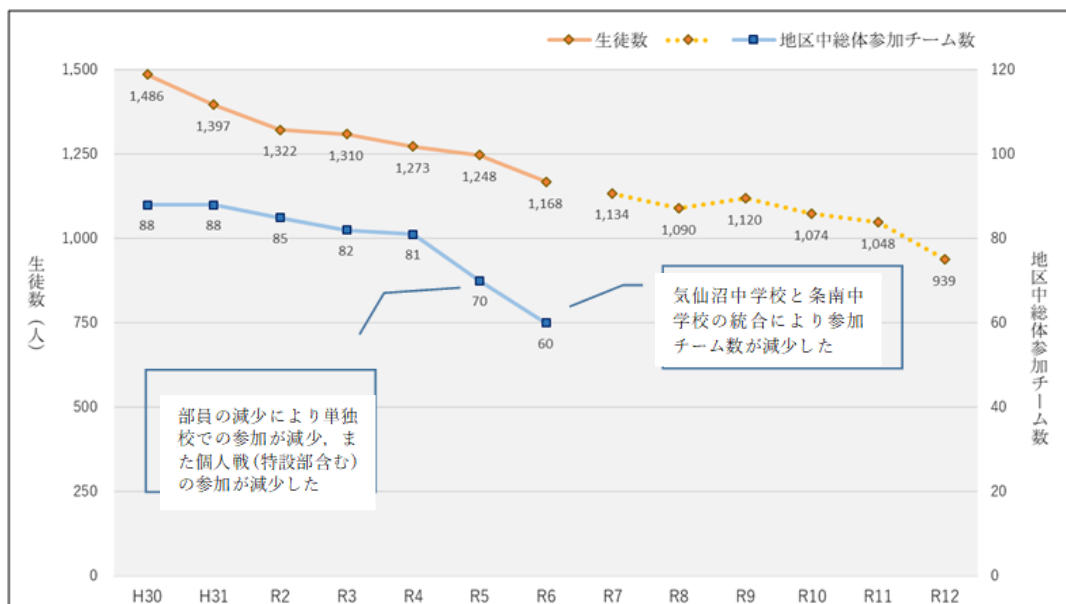
人口減少が進む中、生徒数の減少により、中学校の部活動では団体競技の人数が確保できず、学校単位での活動が成り立たなくなっている。その結果、生徒が希望する種目を選択できない等の課題が生じている。

こうした状況を踏まえ、本市では「中学生のスポーツ環境の充実」と「地域スポーツの振興」を2本の柱として、中学校部活動の地域移行を進め、持続可能で豊かなスポーツ活動の環境を整備することとしている。

令和5年8月からは、サッカーと卓球の2つの競技において、学校と地域が連携した「合同練習会」を実施し、さらに、令和6年9月からは、5つの競技(サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボール)で地域クラブ活動を開始した。令和7年度はこれらの競技を通年で実施できる体制を整えた。

今後、地域スポーツの振興を図るためには、これまで指導経験のなかった競技経験者や保護者等、地域のつながりによる指導者の確保と育成に加え、受け皿となる団体の拡充を図るとともに、指導者の質の向上に努める必要がある。

【本市の中学生徒数と地区中総体参加チーム数の推移】

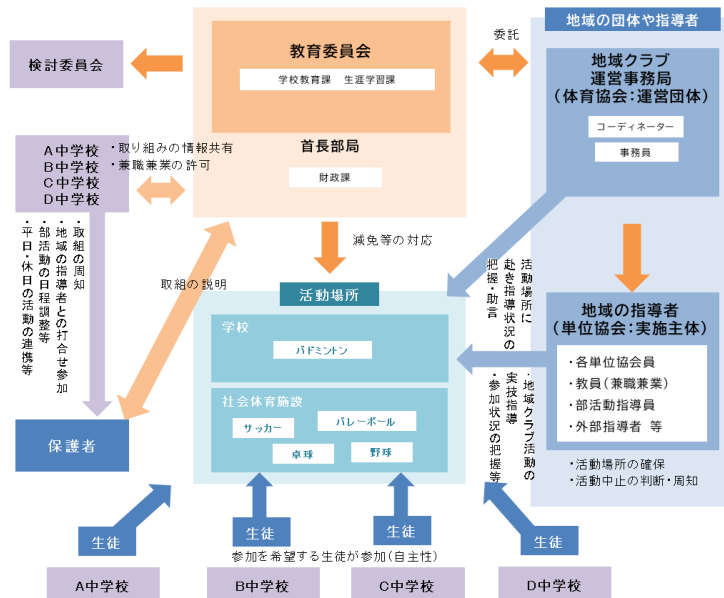


出典：第7回気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会資料

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…検討委員会の開催、学校との調整・連携、委託団体との連絡調整等
- ・生涯学習課…学校施設、市公共施設の利用調整等

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

◎コーディネーター

- ・教育委員会との連絡調整 ・各学校と地域指導者の連絡調整 ・実施報告書のとりまとめ
- ・指導状況の把握 ・地域指導者への研修、助言 ・生徒、保護者の相談受付 等

年間の事業スケジュール

- 令和7年3月 地域指導者と部活動顧問の打合せ
- 令和7年4月 市から市体育協会へ業務委託
地域クラブ活動 順次開始
- 令和7年6月 実証団体へのヒアリング
指導者研修会
- 令和7年7月 検討委員会開催
- 令和7年8月 学校訪問（中学校教員）へのヒアリング
- 令和7年9月 検討委員会開催
- 令和7年10月 スポ少団体等との意見交換
- 令和7年11月 生徒・保護者等へのアンケート
（実証事業成果の調査）
- 令和7年12月 検討委員会開催
指導者研修会開催
- 令和8年1月 指導者研修会開催
新入生保護者への説明
- 令和8年2月 教員向け研修会開催

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	5クラブ（39部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	77人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
気仙沼市 体育協会	一般社団 法人	サッカー	休日 月2回	9時～12時	のべ 139人	4月～2月	15人	2人 (内、兼務1人)	0円/年	中体連： 学校単位で参加
		卓球	休日 月2回	9時～12時	のべ 345人		24人			
		バドミントン	休日 月1回	8時半～11時半	のべ 63人		17人			
		野球	休日 月1回	13時～16時	のべ 32人		15人			
		バレーボール	休日 月1回	9時～12時	のべ 137人		6人			

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- サッカーは、実施団体が主体となり、独自に運営しているスクール事業と連携し、他市の生徒とも交流を図った。
- 卓球およびバレーボールは、指導技術の習得や活動内容の充実を図るため、実践を通じた指導方法に関する研修会を企画・実施した。
- 市ホームページ等の広報媒体を活用し、生徒・保護者・学校関係者に向けて地域クラブ活動の紹介動画を制作した。

サッカー URL： <https://www.youtube.com/watch?v=sohMqkILk0w>
 卓球 URL： <https://www.youtube.com/watch?v=WFV93a7fg2E&t=4s>
 バドミントン URL： <https://www.youtube.com/watch?v=9Y9IuBy3W7I&t=12s>
 野球 URL： <https://www.youtube.com/watch?v=V5LLuMJJeSXQ&t=8s>
 バレーボール URL： <https://www.youtube.com/watch?v=4yzvnnLj-Dc&t=38s>

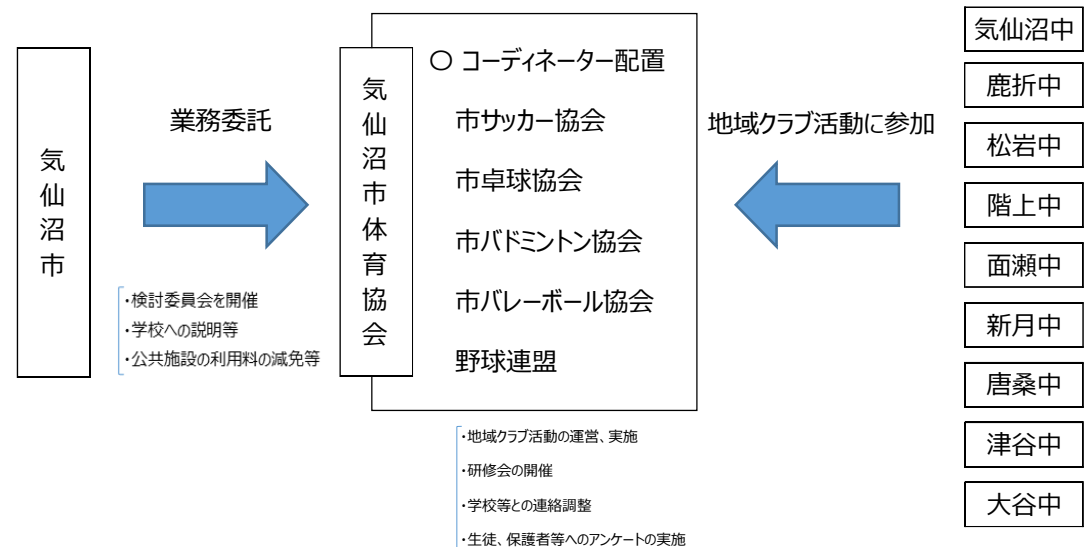
2.実証内容と成果

主な取組例

●一般社団法人気仙沼市体育協会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボール
運営団体名	一般社団法人気仙沼市体育協会
期間と日数	サッカー : 4月20日～2月1日 (17回) 卓球 : 5月11日～1月17日 (18回) バドミントン : 4月27日～1月18日 (10回) 野球 : 6月28日～1月17日 (4回) バレーボール : 4月20日～1月17日 (5回)
指導者の主な属性	体育・スポーツ協会の指導者 教員の兼職兼業、部活動指導員
活動場所	学校施設、公共施設
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	0円/年(公費)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導者1人あたり: 1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●運営団体(コーディネーター1名、事務員1名)

役割: 各学校と地域指導者の連絡調整、生徒・指導者の保険に関すること
指導者の研修・助言、物品の調達、調査研究業務等を行う

●運営責任者(各協会等で配置)

役割: 活動中止の判断及び周知、生徒の出欠状況の把握等を行う

●地域指導者

役割: 技術指導、活動中の事故やけが等への対応を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

●コーディネーターの配置

コーディネータを配置し、各学校や実施団体との連絡調整や各クラブを巡回し、活動状況の把握や活動上の課題等の整理を行う。

●運営体制の整備

各団体の運営体制の整備や人材の確保を行い、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

●学校との連携強化

学校と指導者の連携を一層強化するため、教育委員会から本事業に係る打合せへの出席や部活動の日程調整等を依頼し、学校側の理解と協力を求める。

●ICTの活用

生徒や保護者、関係者間の円滑な連絡ツールとして、ICTを活用する。

取組の成果

- 運営団体にコーディネーターを配置したことで、実施団体との連携体制を構築し、連絡調整や打合せ等を円滑に進めることができた。
- 一部の競技では、昨年度まで地域を限定して活動していたが、団体の協力もあり、令和7年度は全域にエリアを拡充して（北部と南部の2つのエリアに分けて）活動を実施することができた。

- 団体の協力により、これまで指導に携わっていなかった競技経験がある者や保護者、教員等、地域のつながりを活かして昨年度より13人指導者を増やすことができた。
- 連絡アプリを活用して、活動日程や当日の欠席連絡、アンケート調査等、連絡体制の課題の洗い出しを行うことができた。

今後の取組における課題

- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成が必要である。
- 将来的な指導者不足や運営スタッフの高齢化等、持続可能な体制を確立していく必要がある。
- 現場の教員と地域指導者の間での活動の方針等において、まだ温度差がある。

課題への対応方針

- 定期的に学校・地域指導者との協議の場を設け、相互理解をさらに深めることで連携の質を向上させる。
- 誰にとっても使いやすく、確実な連絡体制を確立する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・ 学校と地域指導者の打合せを開催した。
- ・ 実施団体に対し、実施方針の共有や安全管理や連絡体制に関する打合せを行った。
- ・ 生徒、保護者、学校等へ活動日等の連絡調整を行った。
- ・ 各クラブを巡回し、クラブ活動への生徒の参加状況や指導体制の状況を把握した。
- ・ 地域指導者に対し、各種研修の企画や情報提供を行った。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・ 生徒や保護者、関係者間の円滑な連絡ツールとして、ICTを活用した。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・ 運営団体が主体となり、指導者に対して安全管理やコーチング等の研修を実施した。
- ・ 教育委員会と運営団体で、活動開始前に指導者に対し、熱中症事故予防対策について「学校における熱中症対策ガイドライン」を用いて説明を行った。
- ・ 実施報告書は、練習毎に指導者に作成をし、活動開始前後で熱中症指数を記録する等の対策を行った。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・ 活動開始前に、地域指導者と部活動顧問の打合せを行い、事故等が発生した場合の対応のマニュアルと保護者等への連絡体制について確認を行った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 人材の確保と名簿の整備
市体育協会へ各競技団体の指導者名簿の作成を依頼し、指導者や運営を担う人材の確保を進める。
- 指導者の質の向上と研修会参加の推進
地域指導者の資を向上させるため研修会を開催するとともに、県が主催する研修会の情報提供と積極的な参加を促す。

取組の成果

- 団体の協力により、これまで指導に携わっていなかった競技経験がある者や保護者、教員等、地域のつながりを活かして昨年度より13人指導者を増やすことができた。
- 運営団体が安全管理やコーチング等の研修会を実施し、競技団体では実践を通じた指導方法について研修会を実施した。

今後の取組における課題

- 現在の指導層が高齢化しており、特定のメンバーに依存しているため、活動を継続していくために不安がある。
- 地域指導者は、スポ少と掛け持ちで指導いただいていることもあり、月1～2回の活動回数に留まっている状況である。

課題への対応方針

- 若手および教員の兼職兼業での指導者、新規人材の発掘・育成を継続する。
- スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等を市の認定クラブとして位置付ける等、受け皿となる団体や指導者を増やしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- ・ 運営の異なる総合型地域スポーツクラブ代表者に呼びかけ、指導に携わることについて事前に相談したことで、指導者がスムーズに活動の場に来ていただくことができた。
- ・ コーディネーターの呼びかけで、小学校教員も指導に携わっていただくことができた。

指導者研修の内容

研修名	指導者研修会（1回目）
講師	仙台大学 学長特別補佐 松本 文弘 氏
研修内容	1. より良いスポーツ指導の在り方 2. 学校部活動の地域展開の現状と課題

研修名	指導者研修会（2回目）
講師	仙台大学 講師 坂上 輝将 氏
研修内容	1. コーチングとは 2. 中学生の心理的・身体的特性 3. 指導の際の留意点

研修名	指導者講習会（3回目）（バレーボール競技）
講師	高等学校 教諭 他1人
研修内容	新しい練習方法の習得

研修名	指導者講習会（4回目）（卓球競技）
講師	民間スクール コーチ
研修内容	新しい練習方法の習得

研修名	指導者講習会（5回目）
講師	高等学校 教諭
研修内容	生徒への効果的なアプローチ

指導者研修受講者の声

●参加者の声

- ・ 生徒が求めていることに正対して答えるからこそ、先生の言葉は「伝わる言葉」になると感じさせられた。
- ・ 地域移行について、とてもわかりやすく理解が深まった。
- ・ 今後、どのように進めていくべきか助言いただき、ありがたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 将来的な枠組みに向けた費用検証
持続可能な支援方策の検討を視野に入れ、年間を通して地域クラブ活動の運営費や指導者謝金等、活動の維持に必要な費用を検証する。

取組の成果

- 指導者総数77人に対し、時給単価1,000円、1回3時間、年間54回の活動実績に基づき算定している。
- 5競技で合計235人の生徒が参加登録しており、生徒一人当たりの負担の妥当性を検証するための基礎データを蓄積することができた。

項目	費用	割合
クラブ活動費	1,591,680	45.2%
諸謝金（指導者謝金）	1,029,000	
スポーツ消耗品	239,230	
保険料（生徒・指導者）	323,450	9.2%
クラブ運営費	1,930,759	54.8%
諸謝金（コーディネータ、事務局員、講師）	908,000	
旅費（コーディネータ、事務局員、講師）	334,203	
通信運搬費（連絡用アプリ）	121,000	
役務費（振込手数料等）	21,290	
消費税相当額	226,045	
一般管理費	320,221	
合計	3,522,439	

出典：令和7年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業委託経費決算書

今後の取組における課題

- 今回の実証事業で算定した経費は、休日の月1～2回程度の実施に要した経費である。
- 今後は、活動頻度の増加や平日の活動実施、大会参加に伴う諸経費が見込まれる。活動規模の拡大に比例して、指導者謝金や事務局人件費等の総額が増える見込みである。

課題への対応方針

- 単年度の成果に留まらず、将来的な持続可能性を見据えた検証を継続する。
- 令和8年度においては、平日・休日ともに地域展開するモデルとして、パイロット的に実証を行う。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は「中学生のスポーツ環境の充実」と「地域スポーツの振興」を柱に、サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボールの5競技において通年実施できる体制を整備した。一般社団法人気仙沼市体育協会への業務委託を通じて、コーディネーターの配置や指導者の確保を進め、学校単位では維持が困難になりつつあるスポーツ活動の持続可能な環境づくりに取り組んだ。特に、地域のつながりを活かして前年度より13名多い指導者を確保できたことは、地域展開における大きな一歩となった。

●成果の評価

- 地域の競技経験者や教員の兼職兼業等により、合計77名の指導者を確保した。また、専門家によるコーチング研修や競技別研修を計5回実施し、指導の質の向上に努めた。
- ICT（連絡アプリ）の活用により、欠席連絡やアンケート等の連絡体制の課題を可視化できた。また、一部競技において活動エリアを市全域に拡充することができた。
- 指導者謝金や事務局経費等の基礎データを蓄積し、生徒一人あたりの負担の妥当性を検証するための材料を得ることができた。
- 生徒からは「専門的な指導が受けられる」と概ね好意的な声上がり、教員からも「専門外の指導から解放され助かっている」との評価を得ている。

●今後に向けて

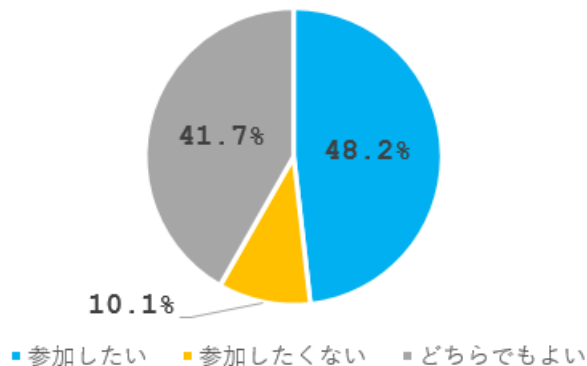
- 生徒・保護者からの「練習回数を増やしてほしい」という要望に応えるため、休日の活動頻度の検討や、男子バレーボールにおいては、令和8年度から平日・休日の地域展開モデルとしてパイロット的に実証を行う。
- 指導者の高齢化や特定メンバーへの依存を解消するため、若手・新規人材の発掘・育成を継続する。また、コーディネーターの業務を担える次世代の人材確保も急務である。
- 学校と地域指導者の間にある活動方針等の「温度差」を埋めるため、定期的な協議の場を設け、相互理解を深める。
- 送迎が困難な家庭の生徒が取り残されないよう、参加環境の整備についても引き続き検討が必要である。

2.実証内容と成果②

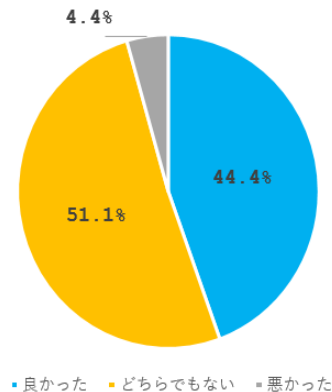
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

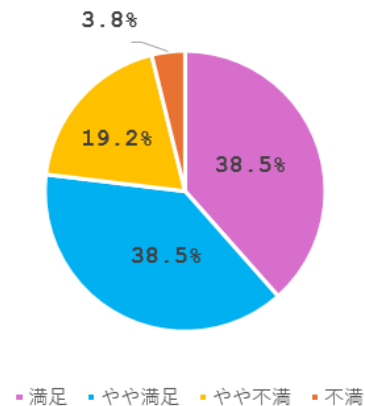
Q.今後も地域クラブ活動に参加したいと思いますか？（中学生）



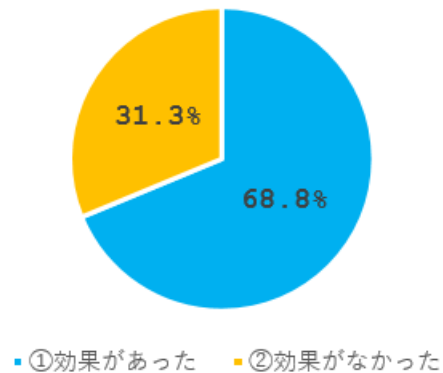
Q.地域クラブ活動について、運営団体・実施団体との連携（活動内容・方針の共有、学校施設の利用、活動時間の確保、安全対策の共有等）はどのように感じますか？（学校）



Q.地域クラブの活動について満足していますか？（保護者）



Q.研修や事故対応マニュアルの効果について効果はありましたか？（地域指導者）



●参加者の声（実証事業に対するアンケート）

中学生

- ・「専門的な指導（技術面）をしてくれる人と体力面を伸ばしてくれる人等がいてバランスがとれていた」
- ・「やる回数が少ない」「もっと練習を増やしてほしい」

保護者

- ・「もっと回数があると良い」
- ・「送迎が難しい家庭の生徒が参加できていないのが気になる」
- ・「部活と地域クラブの兼ね合いが学校毎に違い、戸惑いがあった」

学校

- ・「私は専門ではないので本当に助かっている」
- ・「他校生とトラブルあった際の指導について不安がある」

地域指導者

- ・「中学生に分かりやすく指導をしようと工夫をすることで、自分自身の成長にも繋がっている」
- ・「生徒の参加状況が悪く、学校行事のみならず、スポーツ行事との日程調整が難しい」

2.実証内容と成果④

参考資料

【来年度の新入生保護者への地域移行に向けた取組の周知】

(表)

(裏)

令和8年度気仙沼市立中学校に入学するお子様の保護者の皆様へ

気仙沼市は、子供たちの豊かなスポーツ・文化芸術活動の確保・充実に向けて

5競技で休日の学校部活動を地域クラブ活動として取組を開始しました

国の動向

近年、少子化等により、学校部活動を継続していくことが難しくなっていることから、国は令和4年度から進めてきた準備期間を経て、令和8年度から令和13年度までの6年間を「改革実行期間」と位置づけました。この期間内に、休日の部活動については「原則として全ての部活動で地域展開を実現する」という目標が示されました。

本市の考え

市教育委員会では子供たちの豊かな活動機会の確保のため、「気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会」において、部活動の在り方を検討し、学校を含めた地域人材・団体の理解と協力を得ながら、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術の活動環境として地域クラブ活動の仕組みを新たに構築します。

また、国及び県の方針に沿って、平日の移行も見据えながら、まずは休日の学校部活動の地域移行を目指します。

なぜ地域移行が必要なのか？

- ◆ 生徒数が減少しており、各校で十分な活動ができなくなる可能性が高まっています。
- ◆ 部員数が減少し、学校単位では部活動が成り立たなくなっています。

【中学校の生徒数推移予測】

平成19年度 2,320人
令和6年度 1,168人 (▲49.7%)

【部活動数の推移】

平成18年度 運動部 13競技 (総部数122)
令和6年度 運動部 10競技 (総部数60)

- ◆ 指導者を確保することが年々困難になっています。
- 少子化により学級数が減少した場合、教職員の数が減り、部活の数に対して教員数が不足することが大きな問題となっています。また、競技経験や指導経験が浅い教職員(顧問)が指導に従事する機会が多くなっており、令和4年度の本市調査によると、62.2%の教職員が「経験なし・学校の授業での経験のみ」と回答しています。

移行することにより...

- 学校ごとに部活動が限定されず、子供たちの選択幅が広がります。
- 専門的な指導が受けられやすくなります。
- 子供たちが切磋琢磨できる環境や世代間交流機会の創出により視野を広げ、社会性を育むことが期待できます。
- 教員の負担が減り、教材研究や生徒と向き合う時間等が増えます。

【お問い合わせ】 気仙沼市教育委員会 学校教育課 熊谷・小野寺 ☎22-3441
生涯学習課 佐藤 ☎22-3442

今年度の取組 休日の学校部活動の一部の競技で地域クラブ活動を実施しています

- 令和6年9月より、サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボールの5競技を、令和7年度からは新たに「語り部活動」の体験会を実施するなど、中学生の参加機会を拡充しています。※平日は、これまでどおり学校部活動となります。
- 参加生徒の募集案内は各校を通じてお知らせいたしました。



活動に関するQ&A

※以下の内容については、現時点での内容となっておりますので、今後変更となる場合があります。

休日の部活動と地域クラブ活動の違いは？

学校部活動は学校教育の一環である一方、地域クラブ活動は学校教育外の活動となります。活動中に事故が発生した場合、責任等が異なります。

	学校部活動 (学校が行う教育活動)	地域クラブ活動 (地域が行う社会教育活動)
参加者	当該校の生徒	学校部活動と同一競技で参加を希望する生徒1～3年生
指導者	教員、部活動指導員	地域の指導者
場所	学校施設、公共施設	学校施設、公共施設
活動日時	各学校の部活動指導計画による	各地域クラブ団体等の計画による
保険	日本スポーツ振興センター	スポーツ安全保険

連絡手段は？

保護者と地域クラブ活動の運営責任者が「つながる連絡(アプリ)」を利用し、活動日の連絡や欠席連絡を行います。

参加費は？

令和7年度は参加費はかかりません。

活動場所は？

競技によって活動場所は異なります。活動場所への移動については、保護者の皆様による送迎の御協力をお願いいたします。

活動回数は？

競技によって活動回数は異なります。地域クラブ活動がない週末の部活動については、これまでどおり学校部活動となります。

大会参加は？

各大会要項に示された出場基準に則って参加していただきます。当面は学校単位または複数校による合同チームで出場することが想定されますが、学校に常設部がない等の要件を満たす場合は、スポーツ少年団としての出場も考えられます。

【活動を紹介する動画】



サッカー



卓球



バドミントン



野球

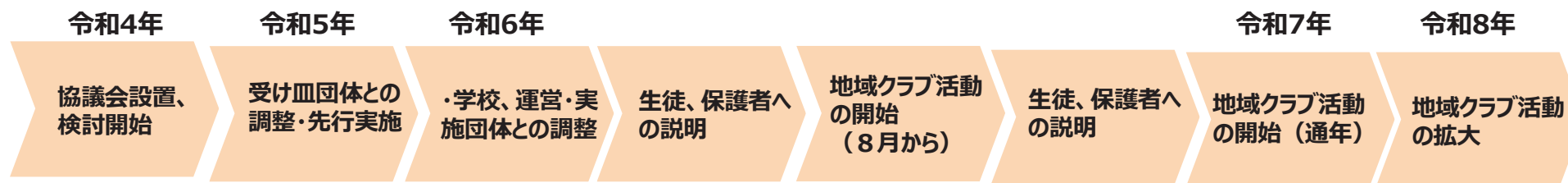


バレーボール



2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

気仙沼市体育協会、気仙沼市文化協会、総合型地域スポーツクラブ、気仙沼市立学校長会、気仙沼市PTA連合会等

●経過

気仙沼市体育協会、気仙沼市文化協会等との準備会を経て、令和4年11月に「気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会」を設置し、中学校における部活動の地域移行に関する体制の在り方を検討している。

●実施内容

令和5年8月から気仙沼市体育協会及び加盟団体の協力のもと、2競技で「休日の学校部活動の合同練習会」を先行して実施した。令和6年9月からは上記2競技に加え3競技を含めた5競技で地域クラブ活動の取組を開始した。さらに、令和7年度は通年での活動とするともに、令和6年度地域を限定して活動していた競技（卓球）においてはエリアを拡充して活動を開始した。

●実施にあたって生じた課題

- ・ステークホルダー間や実施団体等、多岐にわたる関係者との合意形成に時間を要し、活動種目数を増やすことが難しい。
- ・競技団体によっては、現状の活動を維持することが精一杯であり、中学生を受け入れるだけの余力がない。
- ・長期的に活動を維持するための財源や運営体制の構築が求められている。
- ・国や県の補助事業活用に伴う膨大な提出書類や、毎年の様式変更への対応が、運営上の大きな事務負担となっている。

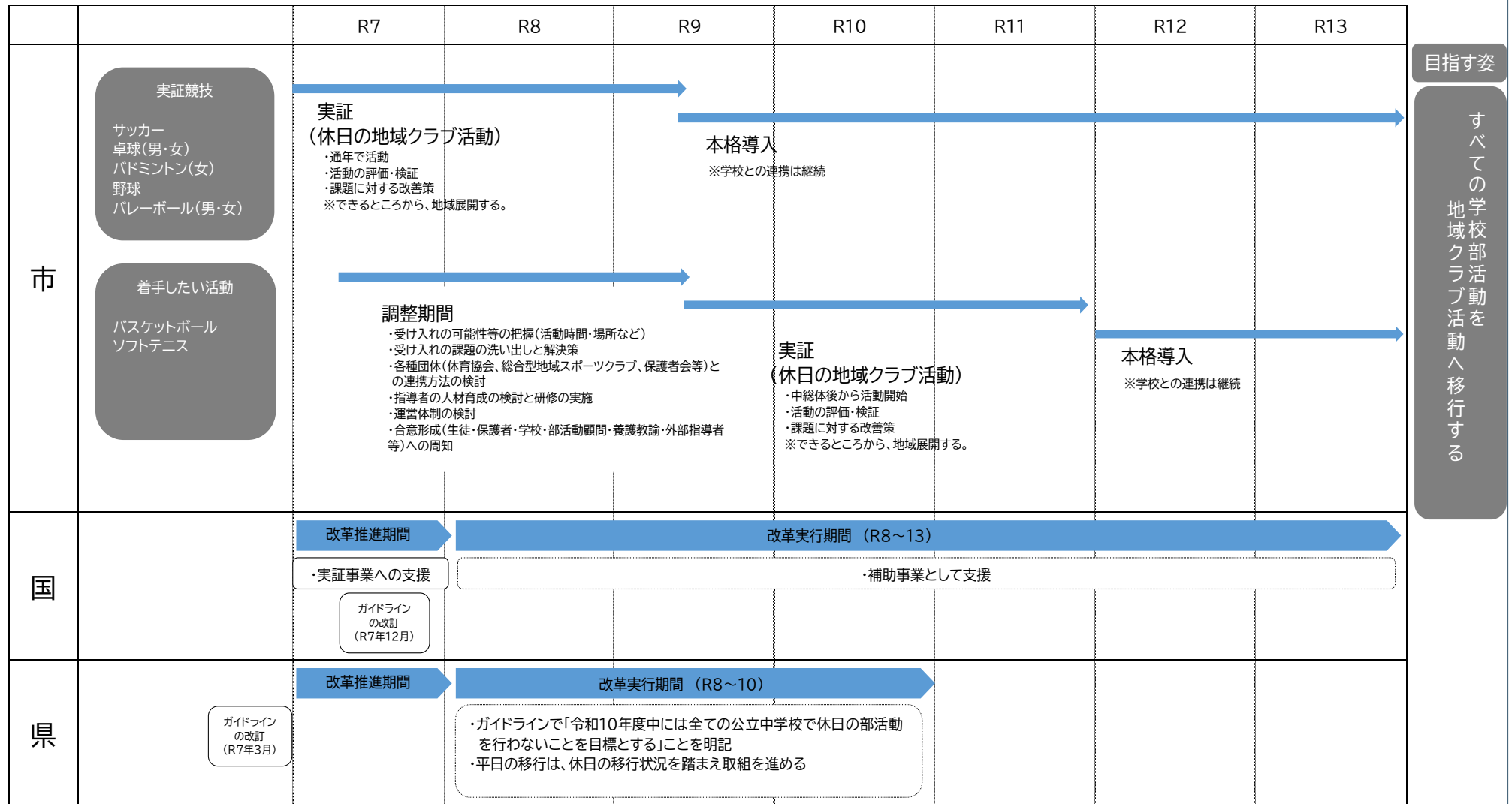
●今後の展開

- ・令和7年度の取組の効果をより確実なものとするため、令和8年度においても取組を継続する。また、多様な団体が参画できる体制を新たに構築する。
- ・男子バレーボールにおいては、平日・休日の地域展開モデルとしてパイロット的に実証を行う。その際には、参加負担の在り方や活動場所までの移動手段を検討する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

休日の学校部活動の地域展開に向けた体制整備に係る計画(案)



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県白石市

自治体名：宮城県白石市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0224-22-1343

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	286.47km ²
人口	29,942人
公立中学校数	5校
公立中学校生徒数	696人
部活動数	40部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

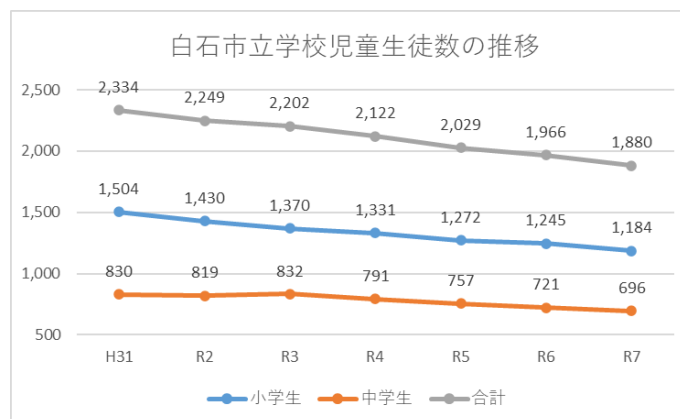
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化に伴い、一つの中学校だけでは特定の運動部を設けることが難しい状況が生じており、設置している運動部の精選が各学校の課題の一つとなっている。また、競技、指導経験がない教員が運動部顧問をしている場合があり、心身ともに負担が大きくなっている。

一方、生徒からは「もっと上手になりたい」「成長したい」との声もあり、更なる指導者及び練習内容の質の向上と充実を図る必要がある。更に、これまで実証事業を実施していた中学校以外からも地域展開の要望があることから、指導者の増員も視野に、地域展開の取組の拡大を図ら

なければならない。

また、生徒、学校、指導者等をつなぐコーディネーターの役割も重要であることから、関係各所との連携を図るとともに、生徒や保護者、指導者、学校等のニーズの的確な把握や、受益者負担の適切な設定や徴収方法の検討等を行うこととする。



出典:白石市在籍児童生徒数

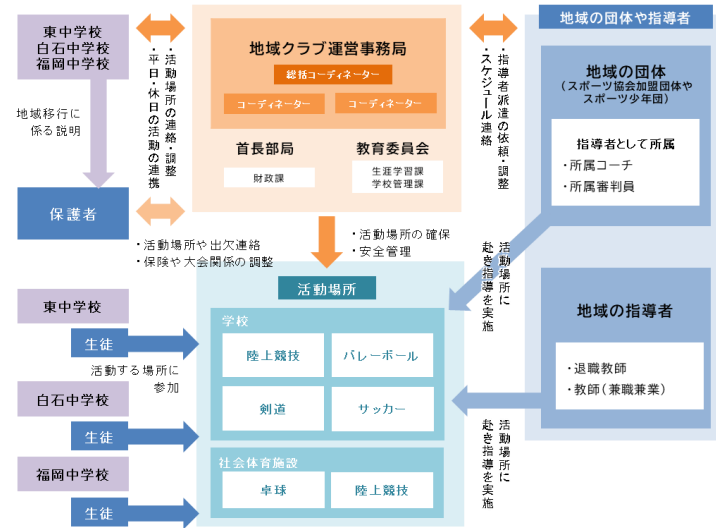
【課題】

白石市の現在の出生数を考慮すると、今後も減少傾向が一層顕著になることが予想される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生涯学習課（スポーツ主管課）：実証事業主管、実施主体との連携
- ・学校管理課（学校体育担当課）：学校部活動、部活動指導員の調整

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

◎コーディネーター

- ・指導者調整、派遣、研修・緊急時対応 等

年間の事業スケジュール

令和7年	4月	拠点校における実施準備
令和7年	5月	拠点校との打ち合わせ 指導者との打ち合わせ
令和7年	6月	保護者説明会
令和7年	7月	地域スポーツクラブ活動開始
令和7年	8月	地域スポーツクラブ活動
令和7年	9月	地域スポーツクラブ活動
令和7年	10月	地域スポーツクラブ活動 市内中学校長との打ち合わせ
令和7年	11月	地域スポーツクラブ活動 中間協議会
令和7年	12月	地域スポーツクラブ活動
令和8年	1月	地域スポーツクラブ活動 アンケート実施 (生徒,保護者,教員)
令和8年	2月	地域スポーツクラブ活動 実施協議会 完了報告書、成果報告書作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4クラブ（4クラブ）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	8人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	種目	実施回数	実施時間帯	実施期間	活動場所	運営スタッフ数	会費
白石東中学校 陸上クラブ	陸上競技	月2回程度 週1回（土日祝）	9時～12時	令和7年7月 ～令和8年2月	白石川緑地公園陸上競技場 角田市陸上競技場	3名	0円
白石東中学校 卓球クラブ	卓球	月2回程度 週1回（土日祝）	9時～12時	令和7年7月 ～令和8年2月	白石市中央公民館ホール 旧白川中学校体育館	3名	0円
白石東中学校 女子バレークラブ	バレーボール	月2回程度 週1回（土日祝）	9時～12時	令和7年9月 ～令和8年2月	白石東中学校体育館	3名	0円
白石東中学校 剣道クラブ	剣道	月2回程度 週1回（土日祝）	9時～12時	令和7年9月 ～令和8年2月	白石市優武館道場	3名	0円
白石東中学校 サッカークラブ	サッカー	登録者なし 未実施					

③その他、体験会

- 地域クラブ活動各クラブの初回は部活動と抱き合わせにし、引継ぎ含めて実施

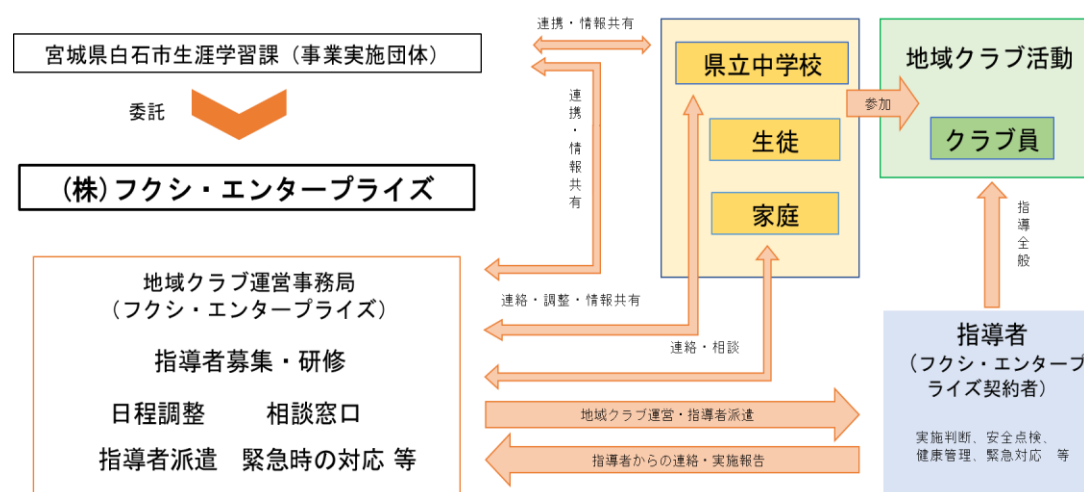
2.実証内容と成果

主な取組例

●宮城県白石市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	白石市東中学校 陸上・卓球・女子バレー・剣道
運営団体名	株式会社フクシ・エンタープライズ 東北支店
期間と日数	7月5日～2月22日 月2回程度
活動場所	白石東中学校体育館 白石川緑地公園陸上競技場 白石市中央公民館ホール 白石市優武館道場
主な移動手段	自家用車・公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	一律0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事業責任者 1人
役割：活動における管理者として、自治体、学校との連携を行う
- 事業担当者 1人
役割：活動における現場責任者として、講師、保護者との連携を行う
- 運営補助者 1人
役割：現場責任者の補助として運営を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・広域的なコーディネーター活動を行う事業担当者を1名配置し、各学校、講師、連絡調整を行う。
- ・参加者管理、参加者・指導者への連絡、活動日時調整、SNS等アプリを活用する。

取組の成果

- ・事業担当者を配置したことにより、各関係各所、保護者対応等の連絡調整やコーディネーター業務を円滑に行うことができた。
- ・SNS等のアプリの活用により、参加者及び保護者への連絡調整、参加登録手続き等、効率的に行うことができた。

順序	項目	保護者様	事務局
1	参加登録	二次元コードから参加登録（保護者の同意含む）をお願いいたします。	
2	スポーツ保険加入		参加登録が確認でき次第、スポーツ保険に加入いたします。スポーツ加入後は、 保険加入完了通知メール をお送りいたします。
3	クラブ活動参加	事務局から【 保険加入完了通知メール 】が届いたら登録完了とし、クラブ活動に参加できます。 ※スポーツ保険加入が完了していない場合、地域クラブ活動の参加はできません。	

項目	概要
開催日程について	各部活動地域クラブの開催日程につきましては、メールをお送りいたします。
欠席の連絡について	欠席の場合は、地域クラブ活動の1時間前までに欠席の旨をお伝え下さい。
統括責任者について	都度の地域クラブ活動に合わせて学校に常駐はしておりません。定期的な巡回を行い、環境整備に努めてまいります。
事故発生の対応	地域クラブ指導者は、被害生徒等の状況に応じて、速やかに止血、心肺蘇生などの応急手当を行います。
加入する保険について	スポーツ安全保険に加入いたします。当保険は、クラブ活動中及び登下校中の事故等も保障の対象となります。故意による破損等が発生した場合は保障対象外となります。詳細につきましては、「 スポーツ安全保険のあらまし 」をご確認ください。
個人情報について	個人情報保護方針に則り、地域クラブ活動運営業務以外に使用いたしません。

出典:令和7年度白石市地域スポーツクラブ体制整備実証事業保護者マニュアル

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・各地域クラブを巡回し、講師から課題等のヒアリング・助言等を実施。
- ・各学校の顧問と調整等を実施し、連携、スムーズな運営に努めた。
- ・学校、講師、参加者、保護者への連絡および調整を実施した。
- ・巡回時に講師と話し合いの時間を設けることで課題早期解決に努めた。

今後の課題と対応方針

- ・学校区域内の講師確保を目指すことにより、持続的なクラブ運営体制の構築を図る。
- ・コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る。
- ・欠席者からの連絡対応の簡略化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- スポーツ推進委員、スポーツ協会、協会加盟の競技団体、スポーツ少年団等スポーツ関連団体や大学と連携し、指導者を確保する。
- スポーツクラブ活動に携わる指導者全員を対象に研修会を開催し、指導者の質の向上を図る。
- 事業実施に先立ち、指導者に対し右図の緊急時対応マニュアルを共有するとともに、緊急時における連絡体制の確立に向けた事前打ち合わせを実施した。

取組の成果

- スポーツ協会加盟の競技団体経由や指導者の繋がり、参加している生徒の保護者等から指導者を4名確保した。
- 猛暑で熱中症リスクが高まる状況において、活動実施の可否や内容調整を迅速に行うため、熱中症警戒アラートや暑さ指数の活用の共有を行ったことで、安全に活動することができた。

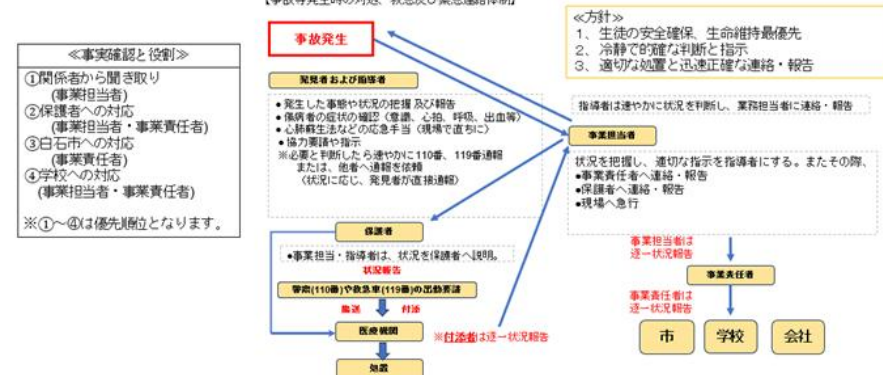
→実施前日17時に状況を確認し、実施の可否を決定→関係各所への連絡
 →当日5時に再度確認し、実施の最終可否を決定→関係各所へ連絡
 →活動時に講師と連絡を取り合いながら、練習時間や内容の変更に随時対応
 →講師にWBGT測定機器を支給し、実際の現場で熱中症リスクに応じた活動可否の判断を行う協力体制を確立させ実施

R7年度緊急時対応マニュアル

事故発生時の対応

事故等による傷病者を発見した際には、第一発見者は、被害児童生徒等の症状を確認し、近くにいる指導者や生徒等に応援を要請するとともに、被害生徒等の状況に応じて、速やかに止血、心肺蘇生などの応急手当を行います。

【事故等発生時の対応、救急及び緊急連絡体制】



今後の課題と対応方針

- 熱中症警戒アラートが発生した際には、学校や講師へ迅速に情報を共有できる連絡体制を整備する。また、猛暑下での活動については、WBGT値等客観的な指標を用いた実施可否の判断基準を設け、講師間で統一した判断をできる体制を確立する。
- 緊急時対策に特化した取組を実施したが、その他の研修も取り入れ、更なる指導者の質の向上を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

白石市部活動地域スポーツクラブ活動体制整備事業の一環として、日本卓球株式会社（ニッタク）様、白石市卓球協会、白石工業高校の全面協力のもと、白石市内の子どもたちに卓球の楽しさを体験してもらうとともに、卓球に親しむ機会の創出、卓球人口の拡大および技術力向上のきっかけづくりを目的とした卓球教室を開催した。

参加者の募集については、白石市内の小学校と中学校にチラシを配布しイベントの周知と参加者の募集を行った。

会場については、急遽選挙が開催されることとなり当初想定していた会場が使用できなくなったが、地元の白石工業高校様のご協力を得て開催した。



活動の詳細

参加者	白石市内小学生 白石市内中学生 白石東中卓球クラブ 白石工業高校卓球部 全21名	指導者	日本卓球（ニッタク） 細井講師、竹本講師 地域移行卓球クラブ 村上講師、杉原講師
内容	卓球クリニック ①初心者向け卓球体験会（卓球にふれ楽しむ） ②経験者向け技術向上クリニック		
参加者の声	● プロで実際に活躍されている選手から指導していただけて、すごく良い機会になった。 ● より専門的な技術の習得につながった。 ● 卓球は初めてだったが、これから始めてみたいです。 ● 今は難しいけど、練習して完成できるように頑張りたい。		

取組の成果

本イベントでは、小学生から高校生まで幅広い年代の参加者が交流しながら、互いに刺激を受けつつ真剣に練習へ取り組む姿が見られた。卓球未経験の小学生および保護者も参加し、競技への関心を高める契機となった。地域、関係団体、企業のご支援のもと、地域クラブ活動の普及促進および地域貢献に寄与するイベントとして実施することができた。

PR配布チラシ



活動写真



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

・これまで実施していた東中学校における種目の増加を目標とするともに、白石中学校、福岡中学校といった他中学校における実情を把握し、学校側・生徒側のニーズや、指導者の意向など諸事情を認識した上で、実施可能な運動部を選別し、地域展開を図ることとする。

取組の成果

・各中学校長と、実証事業に向けた打合せを複数回実施した。学校側としても地域展開の必要性は認識しているが、現状の取組や地域展開を達成する上での課題など整理が必要となる問題が多いことが分かり、参加までは至らなかった。しかし、問題点の共有・確認が取れたと同時に、次年度へ向けた連絡調整を行うことができた。

今後の取組における課題

- ・ 他校の体育館を拠点校として利用する際に、保護者の送迎負担を軽減すること。
- ・ チーム競技を対象にすることで、他校の生徒に戦術が漏れる可能性があること。
- ・ 部員数の減少により、他地区の中学校との合同チームが長期間続いている状況。

課題への対応方針

- ・ 体育館などの学校施設を使用しない競技から開始し、どの学区から参加しても同じ場所で活動するため、参加者に不公平感を与えない取り組みを進める。
- ・ 個人のスキル向上に重点を置いた活動を広くPRする。
- ・ 次回の総体までを期限とし、学校長や顧問間で合意を形成し、その後は「チーム白石」として結成することについて話し合いを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- ・ 高校生との合同練習を行い、世代間の交流を促進すると同時に、練習の質を向上させることを目指す。
- ・ 現場のニーズや意見を反映した取組を進めるため、実証事業に関して生徒、保護者、指導者、教員を対象にアンケート調査を実施する。

取組の成果

- ・ 高校生と合同練習をすることで、世代間交流・連携などを構築することができ、生徒の技術力の向上、指導者の質の向上を含めて効果的な取り組みとなった。
- ・ 参加した中学生39人を対象としたアンケートの結果、回答者全員がクラブの活動内容、実施回数に対して「よい」、「まあまあよい」と回答している。
- ・ 保護者にも同様に実施回数についてアンケートした結果、85.7%が「よい」、「まあまあよい」と回答しているが、14.3%はもう少し増やしてほしいと感じているようである。
- ・ 対象部活動の顧問を対象としたアンケートの結果、全員が「休日業務が軽減された」と回答。

今後の取組における課題

- ・ 高校生との合同練習は、特定の競技種目に限定されており、さらに一度のみの実施にとどまっているため、回数の増加はもちろんだが、種目の増加についても取組が必要である。
- ・ 一部の保護者からは、アンケートによる意見として「実施回数が不足している」との声が上がっているため、ニーズを踏まえた上で、指導者や学校側と調整を行うとともに、保護者に対しても丁寧かつ、分かりやすい説明や実施していく必要がある。

課題への対応方針

- ・ 現在合同練習を実施している競技種目で、実施回数の増加が可能かどうかを関係者と検討・調整する。また、別種目についても随時検討を行う。
- ・ 地元の高校（白石高校、白石工業高校）に対して、継続的な合同練習の開催や、中学生への指導を依頼するとともに、その必要性や意義を広く周知して、部活動の地域展開は地域全体としての課題であることを認識してもらう。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

活動の詳細（高校生との合同練習）

参加人数	18人	指導者数	7人
属性	世代間交流に関する取組		
具体的な内容	陸上競技は、毎月開催している仙南地区合同練習のうち1月開催の日に、他の中学生と合わせて高校生との合同練習を実施。 卓球は1月と2月に1回ずつ、白石工業高校と合同練習を実施。		
子どもの声	● 自分がやっている種目に対してアドバイスをもらい、以前に比べて上達できた。 ● アドバイスがわかりやすくよかった。 ● 普段の練習より更に上のレベルを体験することができた。		
関係者の声	● 子どもたちは、指導者（大人）から伝えるのとはまた違ったとらえ方で高校生のアドバイスを聞いてくれるので、良い刺激になっている。 ● 各々の専門分野や指導方法を持った指導者が増えることにより、子どもたちの技術力の向上につながるのはもちろん、指導者の指導方法の拡大にもつながる。		
運営経費	指導者間の連携で実施したため費用は発生していない		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- 全体のバランスを考慮しつつ、会費の適切な設定や徴収方法を検討し、受益者負担と公的資金の適切な配分を含めた収支構造の見直しを進める

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・なし

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（519千円）
- ・指導者旅費（15千円）
- ・消耗品費（50千円）
- ・保険料（50千円）
- ・コーディネーター人件費（2,448千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
運営主体の収支は「クラブ活動費」と「クラブ運営費」の二つに分けて検討した。「クラブ運営費」は生徒への直接的な支援に該当しないため、国費や市の自主財源で賄うこととし、「クラブ活動費」については利用者負担として検討を進める方針とした。

（検証結果の詳細は次ページ参照）

収支バランス

今後は、地域クラブに関わる経費をクラブ運営費とクラブ活動費の2つに分けて管理する。令和7年度のデータによると、全体の82.3%を占めるクラブ運営費は公費で賄い、残りの17.7%を占めるクラブ活動費については、どの程度受益者負担とするかを検討する必要がある。
今回の39人の参加者数を基にクラブ活動費の負担額が適切かどうか確認する必要があるが、毎月の負担としては負担感があると考えられる。
収入については現時点では全額公費で対応している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支は「クラブ活動費」と「クラブ運営費」の二つに分けて検討した。「クラブ運営費」は生徒への直接的な支援に該当しないため、国費や市の自主財源で賄うこととし、「クラブ活動費」については利用者負担として検討を進める方針とした。

○クラブ活動費を参加者全員に負担を求める場合や、指導者への謝金および生徒と指導者の保険料の2項目に限って負担を求める場合でも、月額で1,800円を超える見込みである。

○一部の部活動でしか負担の対応が進んでおらず、他の部との均衡を考慮すると、負担を求めるのは難しい状況にある。

○保険料の負担のみを参加者に求める場合、年間の負担額が約1,200円程度となり、理解を得られる可能性がある。

項目	費用	割合
クラブ活動費	632,210	17.7%
諸謝金	518,400	14.5%
旅費	14,140	
消耗品費	49,970	
保険料	49,700	1.4%
クラブ運営費	2,930,734	82.3%
人件費	2,448,000	
通信運搬費	5,160	
振込手数料	1,820	
消費税相当額	151,850	
一般管理費	323,904	
合計	3,562,944	

案①「クラブ活動費すべて受益者負担」⇒

案②「謝金と保険料を受益者負担」⇒

案③「保険料のみ受益者負担」⇒

算出根拠⇒

月額	公費負担額
2,026円/月	2,930,734円
1,821円/月	2,994,844円
159円/月	3,513,244円
費用/①/②	合計-費用

⇒公費負担

①	活動月数	8
②	申込者	39

出典：令和7年度白石市地域スポーツクラブ活動体制整備事業受益者負担試算

今後の課題と対応方針

○クラブ活動費に限定して参加者に費用負担を求める場合でも、一定の人数が参加しなければ費用を賄うことができず、持続可能性の観点で懸念が残る。低額な受益者負担を求めつつ、行政の支援が不可欠であるため、継続的な活動を前提とした仕組みの整備が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 参加者・保護者等の送迎、施設使用料、講師の移動等の負担の軽減に向けて、学校体育施設や、白石市内の公共施設等を中心に活動を実施する。

取組の成果

- 学区内での活動により、生徒が参加しやすくなり、保護者の送迎負担も軽減された。
- 一部備品は地域移行クラブにて用意したが、公共施設の備品を活用することで経費を抑制することができた。
- 練習会場が概ね固定されていたため、学校・コーディネーター・参加者（保護者）間での連絡が円滑に行えた。
- 冬期は室温が低いことから怪我を予防するため学校と協議の上、ジェットヒーターが使用できたことで、安全な練習環境を整備できた。

今後の課題と対応方針

- 屋外の競技種目は、季節、天気、気温、グラウンドコンディション等によって実施回数に影響を及ぼす可能性がある。実際に今年度は熱中症警戒アラートの発生や大雨等により活動が中止となることが発生した。屋内競技種目とスケジュールの調整を行い、予備の活動場所として、屋内体育施設も確保する必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は運営団体が変更され、新体制での実施となったが、講師の半数が継続して担当したことで、2つのクラブはスムーズに活動をスタートできた。残りの2クラブは後半に講師を確保したため開始が遅れたものの、地域や部活動で実績のある講師を配置できたことで、参加者や保護者の理解を得て円滑に移行が進んだ。一方で、1つのクラブは参加希望者がなく、実施に至らなかった。

練習内容については、学校とクラブの講師間で重複部分があったものの、双方が納得の上で調整・合意し、問題なく移行が行われた。

実施回数に関しては、参加者や保護者から「もう少し増やしてほしい」という声があり、より専門的な指導環境を求めるニーズが高まっていると考えられる。

令和8年度は、これらの意見を的確に反映し、地域クラブ活動を安定的に運営できる体制の構築が求められる。

●成果の評価

○指導者の確保

実施できなかった種目の展開方法は大きな課題である。

○実施回数の設定

参加者・保護者の希望する実施回数に対応可能な講師の確保と理解が必要。

○活動場所の確保

学校と運営団体の連携強化が必要（特に夏場や屋外競技の代替施設等）。

●今後に向けて

○指導者の確保

→次年度だけではなく、中長期的に地域の指導者として継続できる講師の確保

○実施回数の設定

→月2回程度設定から、月3回程度の実施に向けて検討

○関係団体との連携

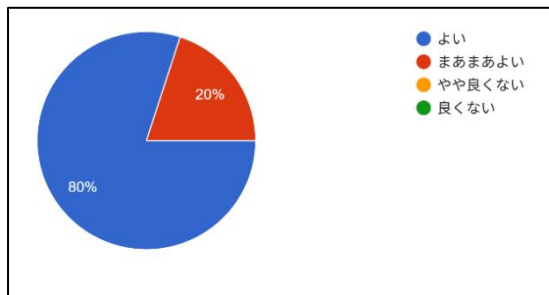
→公共施設を使用する場合の空き状況確認と予約方法の検討（年単位で確保）

2.実証内容と成果

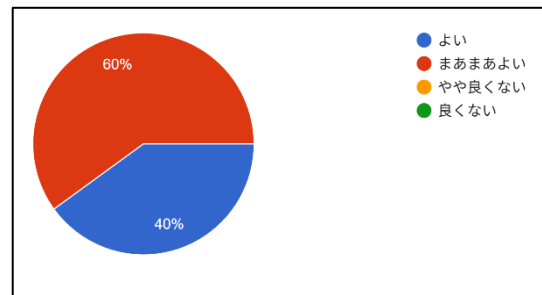
アンケート結果・参加者/関係者の声

・アンケート結果

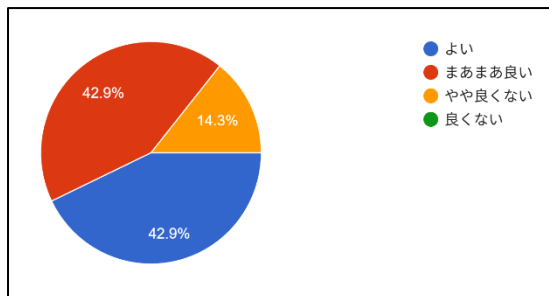
Q、【参加者】休日クラブの活動内容についてどのように感じますか？



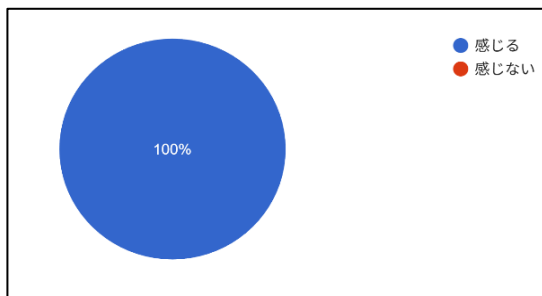
Q、【参加者】休日クラブの実施回数についてどう感じますか？



Q、【保護者】休日クラブの実施回数についてどのように感じますか？



Q、【部活動顧問】部活動地域移行により、休日業務が軽減されたと感じますか？



・参加者/関係者の声

参加者の声①

休日クラブの指導だけではなく、今後平日の部活動の指導をぜひ行ってほしい。

保護者の声①

お陰様で県大会で入賞することができて感謝しています。今後も上位入賞できるようご指導お願いいたします。

保護者の声②

実施回数をもう少し増やしてほしいです。土日に検定などが重なると参加できない日がありました。指導者の確保含めてご検討をお願いします。

部活動顧問の声①

専門ではない部活を担当しているので負担感を感じていたが、専門のコーチに安心して任せられた。休日数も増え、気分も軽くなった。

2.実証内容と成果

取り組み事項

- SNSなどのアプリを利用して、参加申込書や同意書を電子化し、PCやスマートフォンで一元管理を実現した。
- 本事業の説明を動画化し、いつでもどこでも詳しい情報を提供できる環境を整えた。
- 参加者名簿を電子化することで、指導者への参加者情報の共有も電子媒体上で完結できる体制を構築した。

取組の成果

- 参加者名簿の電子化により、生徒が個人情報を含む登録用紙をクラブに持参する必要がなくなり、トラブルの防止につながった。
- 電子化された参加者名簿を使うことで、事務局や指導者間での情報共有を円滑に行えるようになった。
- 参加者名簿の電子化によって、登録から実際の活動開始までの時間を大幅に短縮することができた。

令和8年4月吉日

保護者各位

地域スポーツクラブ活動体制整備事業事務局

令和8年度白石市立東中学校の休日の地域クラブ活動について(剣道)

白石市の教育行政につきましては、日頃格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、白石市教育委員会では部活動の地域展開を進めており、市内中学校の部活動の地域展開については、令和5年度から国の実証事業を活用して、休日の地域クラブ活動を実施しています。令和7年度に引き続き、令和8年度も弊社が休日地域クラブ活動の運営コーディネーターとして携わせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。
地域クラブ活動の参加及び登録方法につきましては、下記詳細をご確認いただき、参加登録をお願い致します。
尚、剣道の活動の実施場所につきましては、**【療武館】**にて実施いたします。
皆様のご参加、心よりお待ちしております。

記

1 白石市立東中学校の部活動の地域移行について
説明資料をご参照ください
□剣道活動場所：白石消防署裏 療武館

2 参加登録フォーム
右側のQRコードより、部活動の登録をお願いいたします。
※年度ごとに登録が必要です。参加ご希望の方は必ずご登録ください。
ご登録後、やむを得ず部活動を欠席される場合は
欠席連絡フォームをご利用ください。

3 部活動の欠席連絡フォーム
地域部活動の開始後は、右側のQRコードより欠席のご連絡をお願いいたします。
※欠席される場合は、連絡不要です。

令和8年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
電話番号・E-mail

【参加者本登録案内資料】

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【白石市東中学校地域クラブの様子：陸上】



【白石市東中学校地域クラブの様子：卓球】



【白石市東中学校地域クラブ活動の様子：女子バレー】



【白石市東中学校地域クラブ活動の様子：剣道】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市教育委員会、統括コーディネーター

●経緯

令和2年度に学校、スポーツ協会、市教育委員会で検討委員会を設置し、拠点校を選定した。また、スポーツ協会加盟の各協会に指導者の派遣を依頼した。その後、拠点校と協議し、実施する部活動を決定。指導者が確保できた5つの部活動で進めることとなった。

●実施内容

拠点校の5つの部活動に所属する部員の保護者に対し、本事業の趣旨や今後の進め方について説明会を開催した。その後、休日の部活動をクラブ活動として実施する取り組みを開始した。

●工夫した点

開始当初は休日の部活動とクラブ活動を同時に実施し、顧問の先生と地域の指導者が協力して指導した。これにより、生徒が混乱せず、平日と休日の活動内容が乖離しないように配慮した。

●実施における課題

スポーツ協会を通じた指導者の選定ができなかった競技では、顧問の兼職兼業や生徒の保護者の登録により、指導者を確保して活動を開始できた。その後も、指導者の人脈やスポーツ少年団のコーチ、退職教師や現役教師の兼職兼業登録を通じて指導者の確保に努めているが、依然として充足していない状態である。現在、スポーツ少年団や地域の大学に指導者募集の案内を送るなど、統括コーディネーターが関係者に働きかける方法を検討している。

団体競技では、人数不足のために他地区の学校との合同チーム編成が避けられない状況にある。

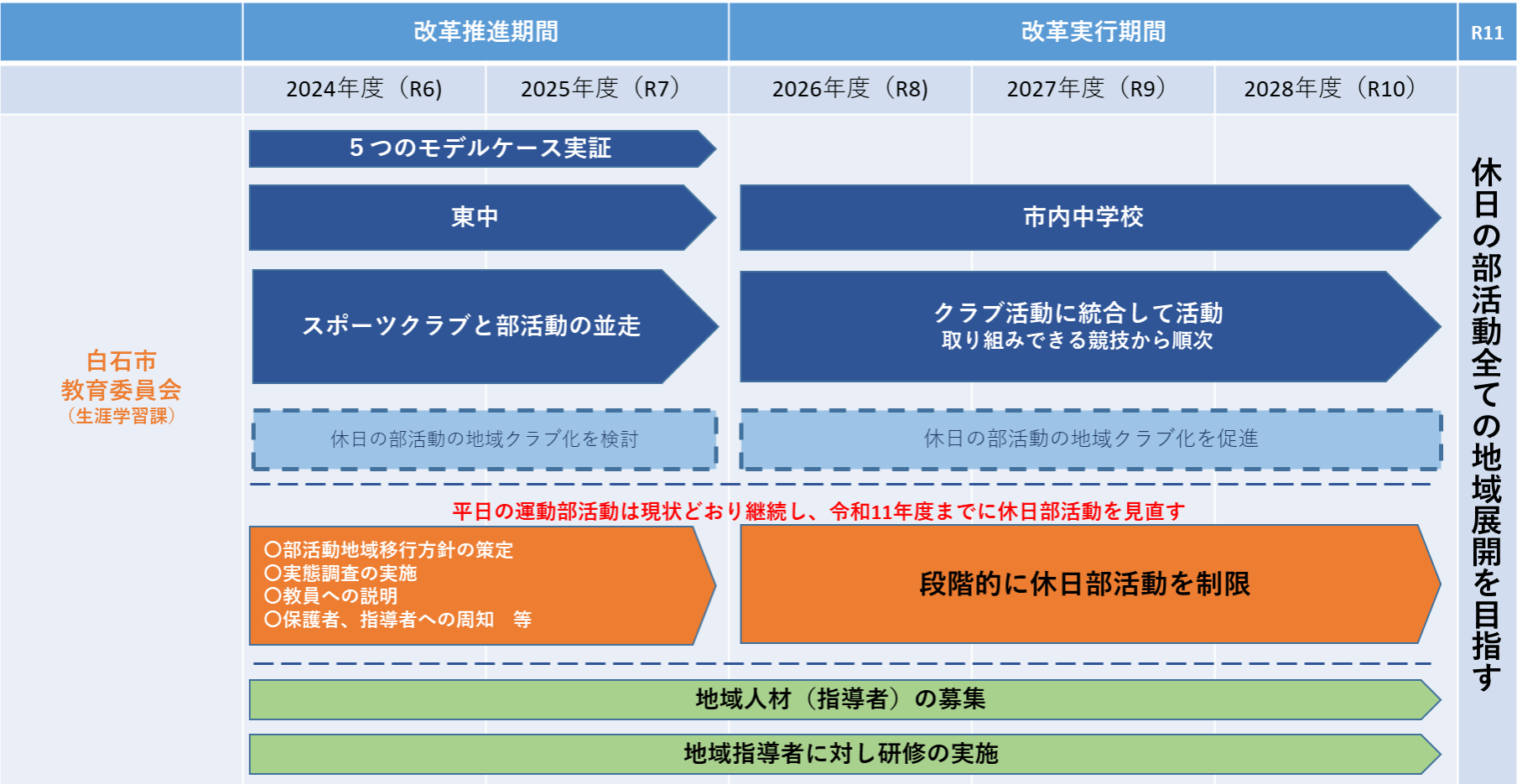
●今後の展望

令和8年からは、拠点校の施設（体育館等）を使う必要がなく、かつ比較的合同チームを組成する必要性の低い個人競技の活動を中心に、拠点校以外の学校からの参加促進を図る。団体競技については、白石地区内でチーム編成ができるよう支援し、クラブ活動への統合を目指す。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

白石市 運動部活動地域展開スケジュール（案）



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県角田市

自治体名：宮城県角田市

担当課名：教育委員会 生涯学習課

電話番号：0224-63-2221

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積14,753km ²
人口	26,011人 (令和7年9月30日現在)
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	613人 (令和7年5月1日現在)
部活動数 (運動部活動のみ)	25部活
地域クラブ活動数	28クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するために、角田市及び教育委員会では、学校部活動の地域連携と地域移行による部活動改革に取り組む。

【課題】

①：生徒数の減少

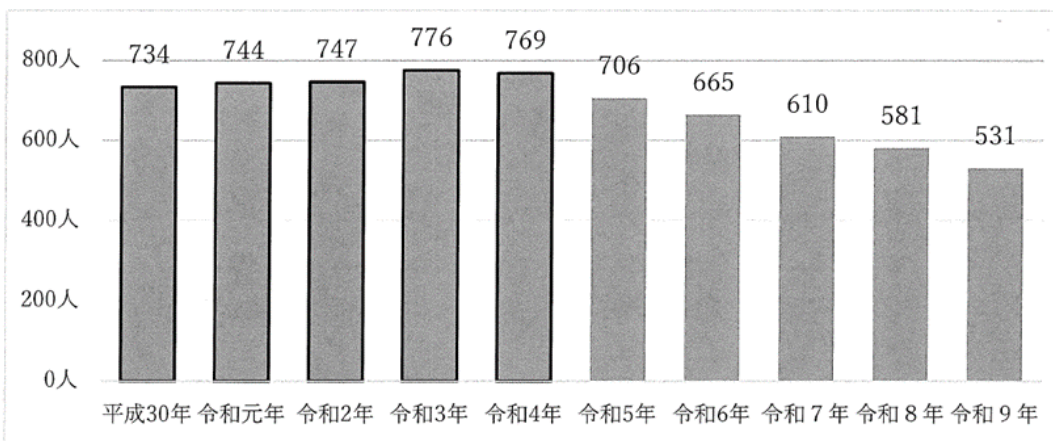
中学生の生徒数は、直近では同数程度で推移しているが、令和5年度以降、減少する見込み。また、生徒数の減少は、部活動種目の維持に対しても影響力が大きく、活動が困難となる部活動が出てくる。

②：教職員の働き方改革

中学校の部活動顧問は、平日・休日問わず生徒の指導を担当し、疲弊している。教職員の負担軽減を図りながら、専門種目の外部指導者を配置することで、休日の指導軽減に資する取り組みが重要である。

以上のことから、本市では部活動の良さを継承しつつ、現状の課題（教員の負担軽減、少子化で現状維持が困難）を解決する。その際、生徒の生涯スポーツ・文化芸術活動への広がりや地域のスポーツ・文化芸術活動への好循環を創出するため体制整備を行う。

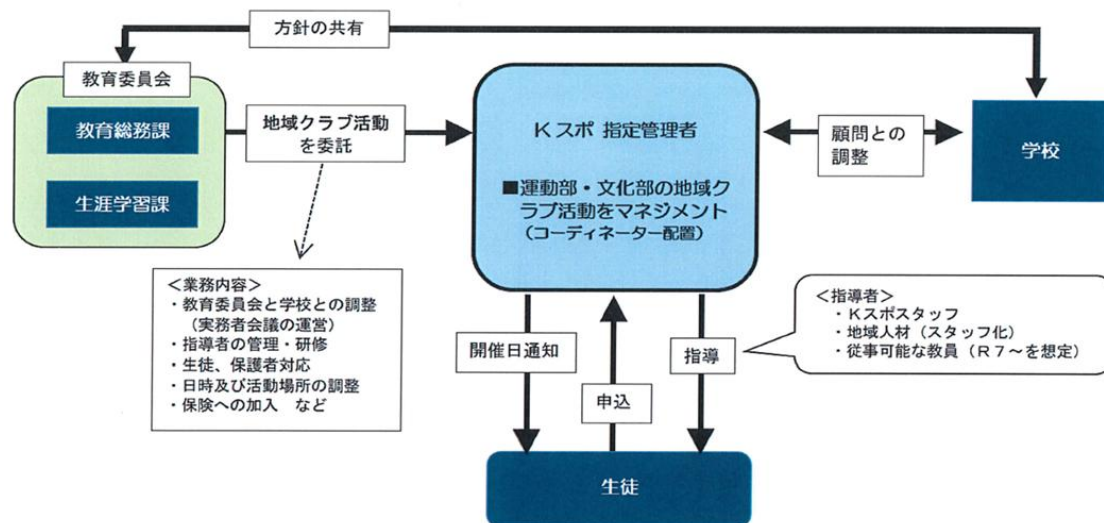
■ 中学校の生徒数の推移（毎年5月1日現在の数、令和5年度以降は推計）



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

教育総務課：学校との調整

生涯学習課：地域スポーツ・文化芸術団体との調整

◎首長部局

予算措置

公共施設所管課：地域クラブ活動での利用の支援（減免）

◎コーディネーター

指導者の確保、学校・教育委員会との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和7年4月 学校ヒアリング

令和7年6月 スポーツ推進審議会

令和7年8月 部活動アンケート

令和8年2月 スポーツ推進審議会

令和8年3月 スポネット会議
（部活動チーム会議）

令和8年3月 スポネット会議

令和8年3月 スポーツ推進審議会

（※）スポネットとは

「スポーツネットワークかくだ」の略。行政、地域スポーツ関係団体、大学、企業で構成し、（公財）笹川スポーツ財団の支援を受ける地域スポーツコミッション（令和3年9月登録）。

スポネット内に専門チームとして「部活動チーム」を設け、当該事業の進捗に係る“協議会”として位置付けている。

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		28クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	25クラブ（25部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	3クラブ	
全体の指導者数	29人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
(株)フクシ・エンタープライズ	民間	角田中学校 ①サッカー ②水泳 ③男バスケボール ④男ソフトテニス ⑤女ソフトテニス ⑥男バドミントン ⑦女バドミントン ⑧陸上競技 ⑨男バレーボール ⑩女バレーボール 北角田中学校 ①男バスケボール ②男ソフトテニス ③女バレーボール ④陸上競技 ⑤女バスケボール ⑥女ソフトテニス	週1回程度（休日の活動）	土日、祝日について、3時間程度/回	角田中学校 3年 45人 2年 76人 1年 82人 計 203人 北角田中学校 3年 21人 2年 32人 1年 31人 計 84人 ※令和7年に新規で移行した種目(●数字)については、3年生引退後のため1、2年生のみ	○数字 令和6年4月～令和7年3月 ●数字 令和7年2月～令和7年3月	29人	2人	なし ※本市では実証事業期間（令和5年～令和7年）において、学校部活動に加えての「新たな負担を求めない」としている。	部活動
		⑪野球 ⑫女バスケボール ⑬男卓球 ⑭女卓球 ⑮剣道 ⑯柔道 ⑦野球 ⑧男バドミントン ⑨女バドミントン								

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- +チャレンジ（多様な体験機会の提供） 開催期日：令和7年12月14日（日） 会場：角田市屋内温水プール
 内容：元水泳日本代表 渡部香生子 氏による水泳教室 参加者：中学生4人（その他一般～小学生60人）

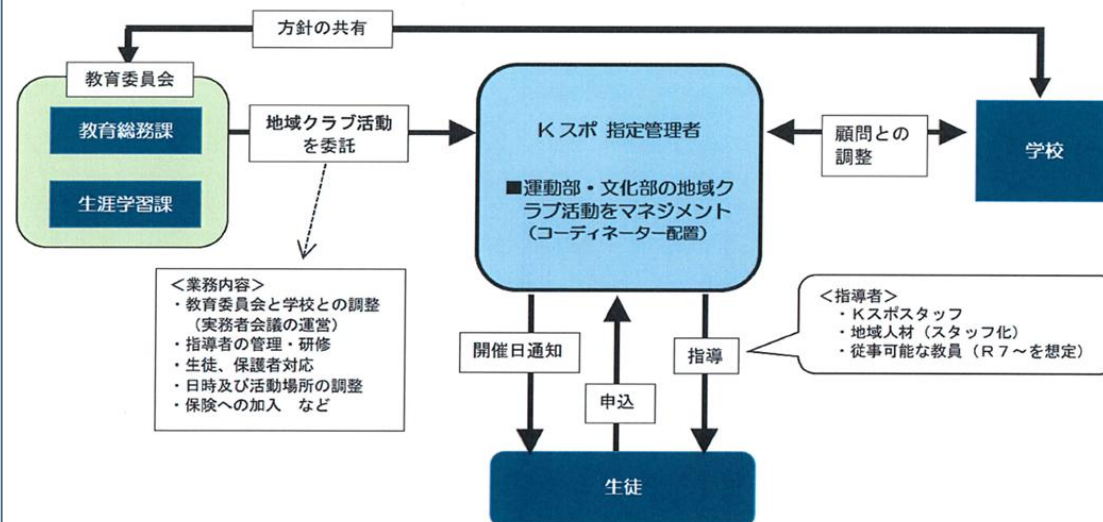
2.実証内容と成果

主な取組例

●（株）フクシ・エンタープライズ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー ほか24種目
運営団体名	（株）フクシ・エンタープライズ
期間と日数	令和6年度移行16種目： 4月1日～2月24日、週1回程度 令和7年度移行9種目： 10月1日～2月24日、週1回程度
指導者の主な属性	（株）フクシ・エンタープライズ正社員及び（株）フクシ・エンタープライズ臨時社員（個別契約）
活動場所	平日の学校部活動場所に同じ
主な移動手段	各自
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

①統括コーディネーター 1名

役割：事業の全体統括を行う

②コーディネーター 1名

役割：統括コーディネーターの補佐を行う

③指導者

各種目の指導者は、専門性及び資質（資格）を有する指導者を派遣する

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

年度当初に、学校長及び顧問等にヒアリングを実施し、具体的実施方法について要望等を取り纏めた。

指導者の選定にあたっては、学校（部活動顧問）と活動内容等について意見交換を行い、円滑なクラブ活動の実施に努めるべく、体制の整備を行った。

結果として、休日の地域クラブ活動（2校25種目）すべてに顧問以外の指導者配置ができ、教員の働き方改革に寄与できた。

取組の成果

令和7年8月に、生徒・保護者及び教職員へアンケート調査を実施した。

アンケート結果から活動に対して前向きな意見が多く、休日の活動に外部指導者が付くことで、「専門的な指導が受けられ、技術が上達した」との回答が最も多かった。

一方で、送迎等の練習サポートについての負担感も意見として寄せられた。

今後の取組における課題

○引き続き指導者の確保に努める。（一部、顧問の兼職・兼業になっているクラブ指導者が人事異動等で空席となる可能性があるため）

○3者へのアンケート結果から大きく次の期待、不安点があげられた。（期待していること）

- ・専門知識、指導技術をもった人に指導してもらえる

- ・教員の負担軽減につながる

（不安・心配なこと）

- ・送迎や練習のサポート

- ・今後発生する（であろう）受益者負担

課題への対応方針

実証事業期間（令和5年～令和7年）においては、平日の部活動環境を引き継ぎ、保護者に新たな負担を求めないことで実施してきた。

改革実行期間にあつては、自立・自走ができる運営体制の確立に向け、より関係者等とも協議を重ね、早期の地域展開を実現させたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

年度当初に、学校長及び顧問等にヒアリングを実施し、具体的実施方法について要望等を取り纏めた。

指導者が決まった後は、活動及び雇用内容について擦り合わせし、円滑なクラブ活動の実施に努めていただいた。

年度末に、指導者打合せを実施し、指導に関する感想・改善事項等の意見交換を行った。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

学校（顧問）と外部指導者及びコーディネーター間での情報共有のため、専用アプリを試験的に導入し、生徒の参加状況やその日の指導内容について確認できる体制を整備した。（費用は初年度無料とのこと）

連絡ツールとしてのアプリの活用について、次年度以降、生徒・保護者への周知、学校との情報共有に努め、透明性の高いやり取りができるよう努めていきたい。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

委託事業者は、3年目を迎え、学校との連絡調整についてスムーズに行うことができ、前年度からの継続種目の指導者との関係も良好であった。また、活動場所についてもほとんどの種目で、平日の学校部活動と同じ場所で実施していることから安全性は担保されていた。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

地域クラブ活動を実施する中で起きた、トラブルや事故に対する対応については、統括コーディネーターが務めている。

活動中のトラブルについての連絡があり、重大案件とコーディネーターが判断したものは、教育委員会まで報告される体制となっている。

これまでの活動（令和5年度～令和7年度）期間におけるトラブル・事故等の報告は無かった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

地域に指導できる人材が少なく、毎年マッチングには苦慮している。

委託事業者の自社（社員）コーチのほか、地域のスポーツ協会及び近隣の大学等の協力のもと、各種目への配置ができた。また、学校側の推薦もあり、一部の顧問の先生（教諭）に兼職・兼業により休日クラブの指導をお願いすることとした。

取組の成果

1年間を通じて活動するため、各種目への指導者の配置が1名だと不測の事態に対応できないこともあるため、コーディネーターを中心に複数名の登録を進めた結果、25種目中11種目に2名以上の指導者登録を行うことができた。

今後の取組における課題

指導者について、複数登録が望ましいことは当然であるが、半分以上のクラブ活動において、1名しか配置できていない。

指導者確保に向けた取り組みを強化するとともに、市外にも目を向けながら、引き続き1名登録の種目について指導者の確保に努める。

課題への対応方針

各団体への協力要請を継続しつつ、学校への協力（顧問の兼業）も相談していきたい。

担当者間での情報交換において、県内市町村でも同様の課題が上がっている。県の主導する人材バンクの登録者と本市の報酬予算額に乖離も大きいいため、事実上、人材バンクが使えていない。

関係者へお願いするなど、自主的に解決するしか方策がないのが実情である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

学校部活動の地域移行に際して、角田市スポーツ協会加盟協会及びスポーツ少年団等へ、指導者に係る協力をお願いしている。

各協会において、地域移行（地域展開）の趣旨をご理解いただきながら、指導者の派遣について前向きに検討いただいている。

取組の成果

スポーツ協会関係者として、5種目に指導者を派遣いただいた。

スポーツ少年団においても、中学生の団員を抱えられるよう検討しているところも出てきた。

中学校に上がってから、通学する中学に種目が無い生徒は、他市町村のスポーツ少年団やクラブチームへ活動する場を移す。

区域や中体連への出場など、枠にとらわれない、広域的な活動の場として、地域クラブの認知が進んできている。

今後の取組における課題

地域展開を進めるにあたり、今まで以上に関係団体との連携が必要になる。指導者の確保は当然クリアするものである一方で、「地域クラブが自走できる環境」を整備していかなければならない。

一方で、生徒の活動の場づくりとして、「勝ちたい子・上手になりたい子」が通えるクラブ、これまで学校部活動が担ってきた「友達と楽しく活動したい子」が通えるクラブの双方が必要なことも見えてきた。

本制度の欠点でもある、中学生の2極化がちょっとずつ進んでいると感じている。

課題への対応方針

部活動改革の大きな課題である「2極化の解消」について、学校や保護者等との協議、関係団体との調整等、行政としてどうすれば『休日の活動』を支えて行けるか、現時点において解決策は見いだせていないが、協議会等の中で議論しながら最適解を見つけていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

指導者の確保に資する、宮城県の担当者研修及びスポーツ関係団体の研修会等へ行政、統括コーディネーター等が参加し、情報収集等を行った。

また、県内の市町村から行政視察の受入れや担当者間での連絡において、現状や課題の共有を図ることで、本市の取組みを振り返りながら、検証することができた。

取組の成果

県内市町村の取組も活発となってきたことから、「市外」の指導者確保にまでは至らなかったものの、情報交換等を行うことができ、課題等の共有に役立った。

時間の経過とともに、指導者確保が困難となる中で、先行して実証事業に取り組んできた甲斐があって、コーディネーター等の確保に至ったことは成果である。

今後の取組における課題

情報収集を進める中で、休日の部活動の大会参加等のあり方、派遣型、集合型のメリット・デメリット等が確認できた。

少子化が進む中、学校単位の活動に限界を感じる声も多く、今後は、活動の受け皿として集合型への切り替えも視野に取り組んでいく。

課題への対応方針

アンケート調査の結果、生徒・保護者双方から、保護者の送迎の負担があげられた。

集合型や合同での活動場所をどこにするのか、会場までの移動はどうするかを検討していく必要がある。

教育委員会としても、既存のスクールバスの活用など、実効性のある次善策を講じていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

多様な体験機会の創出「+チャレンジ」を実施した。

種目：オリンピック（渡部香生子さん）水泳教室

取組の成果

両校の全生徒へ呼びかけを行い、水泳教室を実施した。

参加者は4名と少なかったが、元オリンピック選手から直接指導を受け、参加者の満足度は高かった。



今後の取組における課題

参加者数の伸び悩みが課題である。実施時期や種目について、再度、学校や生徒のニーズを把握しながら設定する必要がある。

会場となる体育館やプールなどの確保についても、休日に予約の取りにくい施設であり、空き状況から人が集まりにくい日程となっていた。

課題への対応方針

実施日については、参加者が見込まれる日程を事前に学校に確認する。

年に1度、満足度を測るため「アンケート」を実施しており、その設問等を工夫しながら、生徒の求める「+チャレンジ種目」を把握していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

計画時点において、「今年度中の完全移行」としていたが、幸いにして全ての種目（2中学校25種目）で指導者を確保でき、休日の学校部活動を地域クラブにおいて実施することができた。

指導者の人選においても、学校の協力の下、一部の種目においては教職員の兼職・兼業も活用しながら配置することができた。

一方で、種目が増えたことにより運営に係る負荷は大きくなり、指導者や学校とのやりとりにより、統括コーディネーター等の負担が増えた。（とてもよく対応してもらったと思う。）

来年度からは「地域展開の改革実行期間（前期）」がスタートする。認定クラブ制度や補助金が始まるので、事務フローを見直し、適宜適切に処理するよう努めたい。

●成果の評価

本市では推進計画どおりに、令和5年度からの実証事業を経て、全種目の休日部活動を地域クラブへ移行することができた。

今年度は従来の2校16種目に加えて、9種目を実施した。対象となる実施種目が増えたこともあり、委託事業者は統括コーディネーターに加え、コーディネーター1名を配置。

各学校に1名の専任コーディネーターを配置でき、確認等において教員、複数の指導者とやり取りする場面もあるため、体制を強化できたことは円滑な事業進捗に大きく寄与した。

また、前年度からの継続種目については、一定の運用スキームができており、安定的に活動を行うことができた。

●今後に向けて

令和8年度からは新たに、地域認定クラブ制度がスタートする。引き続き、コーディネーター・学校と協議を重ねながら、「地域展開」を推進することに努めたい。

また、次年度も実施を予定する「+チャレンジ」については、内容（種目）や開催時期を見直し、より多くの生徒に体験してもらえるように努める。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

令和7年8月吉日

関係者各位

角田市教育委員会

(委託先)：かくたスポーツビレッジ運営共同企業体

構成企業 株式会社フクシ・エンタープライズ

「かくた版部活動・地域クラブのあり方に関するアンケート」へのご協力をお願い

角田市では保護者の皆様をはじめ、学校関係者の皆様のご協力のもと、部活動の地域移行推進基本計画に基づき令和5年度10月より「学校部活動の地域移行」の実証事業に取り組んでいます。令和6年8月現在では市内中学校10種目の部活動において、学校と協力しながら活動を進めております。令和8年度からはすべての休日部活動を移行し地域クラブとしての活動を目指しています。今回のアンケートは部活動の現状や課題を詳細に把握したうえで、角田市ならではの部活動・地域クラブのあり方を検討し、生徒の皆様にとってよりよい部活動・地域クラブ環境を構築するためにまいります。

本アンケートで得られた結果は、部活動における課題解決や生徒にとって楽しい部活動・地域クラブを実現するための貴重な資料になります。ご多忙の中、大変恐縮ではございますが、アンケートへのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、調査結果の集計については、公益財団法人笹川スポーツ財団にデータを共有しご協力いただきます。

記

1. 調査対象：角田市の中学校に通う生徒とその保護者

2. 調査の目的：

- 角田市内の中学生の部活動の活動実態や部活動に対する意識に加え、保護者、中学校教諭の部活動に対する考えや顧問の活動状況等を明らかにし、角田市にとって理想の部活動・地域クラブのあり方を検討します
- 角田市内の中学生とその保護者の運動・スポーツ習慣や意識、生活習慣を把握し、今後の角田市のスポーツ振興施策を充実させるための参考資料とします

3. 回答方法：下記の対象QRコードよりお進みの上、ご回答よろしくお願いいたします

回答期限 2025年9月5日(金)

生徒用

保護者用

【調査企画】

角田市教育委員会、株式会社フクシ・エンタープライズ、公益財団法人笹川スポーツ財団

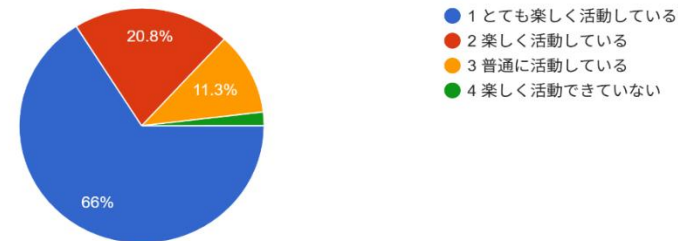
【調査に関する問い合わせ先】

角田市教育委員会生涯学習課 スポーツ振興係

電話番号 0224-63-2221(平日 8:30~17:15)

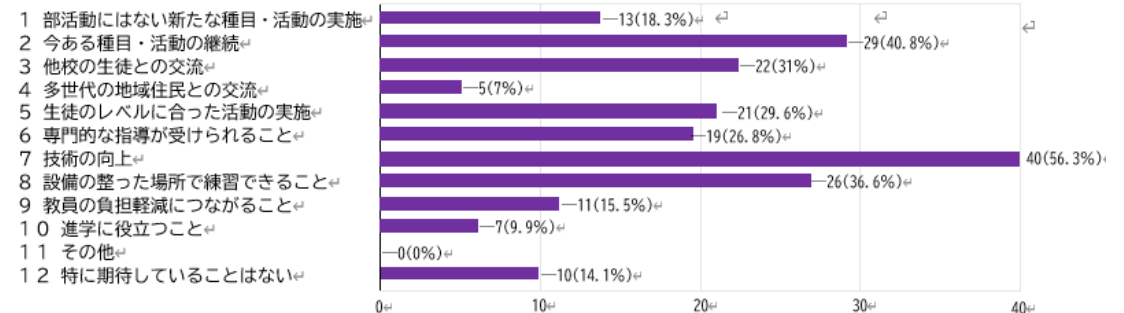
以上

問5-3 楽しく活動ができていますか。
53件の回答

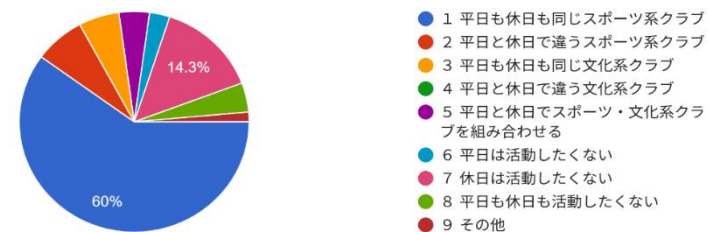


問7 休日部活動が地域クラブ活動に移行したとき、あなたは地域クラブ活動に何を期待しますか。(チェックはいくつでも)

71件の回答



問9 あなたは、地域クラブ活動への移行が進み所...したら、どのようなクラブに所属したいですか。
70件の回答



2.実証内容と成果④

参考資料



【北角田中学校野球部（地域クラブ）】



【北角田中学校女子バドミントン部（地域クラブ）】



【角田中学校剣道部（地域クラブ）】



【+チャレンジ指導風景（渡部香生子氏）】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

